

Hyperion® Analyzer

リリース6.5

 インストールガイド (Windows用)



Hyperion Solutions Corporation

P/N: P/N:

Copyright 1995 - 2003 Hyperion Solutions Corporation. All rights reserved.

U.S. Patent Numbers: 5,359,724 and 6,317,750
アメリカ合衆国特許番号 : 5,359,724 および 6,317,750

Hyperion, Essbase, and the "H" logo are registered trademarks, and Hyperion Solutions is a trademark of Hyperion Solutions Corporation.

Hyperion、Essbase および "H" ロゴは、Hyperion Solutions Corporation の登録商標です。Hyperion Solutions は同社の商標です。

All other brand and product names are trademarks or registered trademarks of their respective holders.

他の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

No portion of this manual may be reproduced or transmitted in any form or by any means, electronic or mechanical, including photocopying, recording, or information storage and retrieval systems, for any purpose other than the purchaser's personal use, without the express written permission of Hyperion Solutions Corporation.

購入者個人で使用する場合を除き、Hyperion Solutions Corporation の書面による明示的な許可なく、複写、録音、情報蓄積および検索システム等の電子的、機械的ないかなる形式または手段によっても、本書を複製または転送することはできません。

Notice: The information contained in this document is subject to change without notice. Hyperion Solutions Corporation shall not be liable for errors contained herein or consequential damages in connection with the furnishing, performance, or use of this material.

注意 : 本書に記載されている情報は、予告なしに変更される場合があります。Hyperion Solutions Corporation は、本書の誤り、またはその設置、性能、あるいは使用によって生じた損害に関して一切責任を負いません。

Hyperion Solutions Corporation
1344 Crossman Avenue
Sunnyvale, CA 94089

Printed in the U.S.A.

目次

はじめに.....	vii
第 1 章 : Hyperion Analyzer の概要.....	15
アーキテクチャの概要.....	16
展開オプション.....	18
展開オプション 1.....	19
展開オプション 2.....	20
展開オプション 3.....	21
展開オプション 4.....	22
Windows スタンドアロン クライアント オプション.....	23
インストール オプション.....	23
第 2 章 : Microsoft Windows への Hyperion Analyzer のインストール.....	25
システム要件.....	25
サーバのシステム要件.....	25
スタンドアロン クライアントのシステム要件.....	27
クライアントのシステム要件.....	28
Hyperion Analyzer をインストールする前に.....	29
インストール前のチェックリスト.....	29
RDBMS に関する考慮事項.....	30
IBM DB2 Version 7.2.....	30
Microsoft SQL Server 2000.....	31
Oracle.....	31
既存のレポジトリのバックアップ.....	32
インストールの概要.....	32
Hyperion Analyzer のインストール.....	32
Hyperion Analyzer インストール後の作業.....	51

システム変数の設定メソッドの決定	51
PATH 変数の設定および出力	52
既存の Apache Tomcat に対する変数の設定	52
既存の Apache Tomcat に対する変数の出力	53
BEA WebLogic に対する PATH 変数の設定	54
BEA WebLogic に対する PATH 変数の出力	54
WebSphere および WebLogic の手動展開	55
外部およびアプリケーションセキュリティの設定	56
Hyperion Essbase OLAP サーバの起動	56
RDBMS サービスの開始	57
IBM DB2 Enterprise Personal Edition の起動	57
Hyperion Analyzer Server の起動	57
Tomcat Application Server の起動と停止	57
Hyperion Analyzer の開始	58
Microsoft IIS Web Server の設定	60
Microsoft IIS Web Server の手動設定 - 手順	60
第 3 章 : インストール内容	63
Hyperion Analyzer の最上位ディレクトリ	63
Hyperion Analyzer のサーバディレクトリ	64
第 4 章 : IBM WebSphere への Hyperion Analyzer の展開	67
IBM WebSphere への展開	67
IBM WebSphere Advanced Edition への展開	67
Web アプリケーションのインストール	67
WebSphere セキュリティの設定	68
IBM HTTP Server httpd.conf ファイルの変更	69
Web サーバプラグインの再生成	69
Hyperion Analyzer Web アプリケーションの起動	70
Advanced Edition Single Server への展開	70
Web アプリケーションのインストール	70
WebSphere セキュリティの設定	71
IBM HTTP Server httpd.conf ファイルの変更	72
Web サーバプラグインの再生成	72
Hyperion Analyzer Web アプリケーションの起動	73
第 5 章 : BEA WebLogic への Hyperion Analyzer の展開	75
BEA WebLogic への展開	75

第 6 章 : スクリプトによるレポートの作成.....	77
IBM DB2 のレポジトリの作成	77
Oracle 用レポジトリの作成.....	80
SQL Server 用レポジトリの作成	82
第 7 章 : Hyperion Analyzer サンプル レポートのインポート.....	85
サンプル レポートのインポート	85
データベース接続の作成	85
サンプル レポート グループのインポート	87
API サンプル レポート グループのインポート	87
第 8 章 : Hyperion Analyzer のアンインストール.....	89
Windows からの Hyperion Analyzer のアンインストール	89
索引	91

はじめに

『Hyperion Analyzer インストール ガイド (Windows 用)』によるこそ。ここでは、次の項目について説明します。

- vii ページの「本書の目的」
- vii ページの「対象ユーザ」
- viii ページの「本書の構成」
- ix ページの「製品マニュアル」
- x ページの「マニュアルの入手方法」
- xi ページの「表記規則」
- xii ページの「その他のサポート」

本書の目的

この『Hyperion Analyzer インストール ガイド』では、製品の概要、機能およびオプションについて説明するとともに、Hyperion Analyzer のインストールで必要となる概念、処理、手順、フォーマット、タスク、および例について説明します。

対象ユーザ

このガイドは、Hyperion Analyzer のインストールや設定、保守を担当するシステム管理者およびアプリケーション管理者の方を対象に書かれていますが、上級ユーザの方にとっても役に立つ情報が含まれています。

本書の構成

このガイドには、次の情報が記載されています。

- **第1章「Hyperion Analyzer の概要」**では、Hyperion Analyzer 製品と、このアプリケーションの各コンポーネントについて説明しています。また、この章では、Hyperion Analyzer のアーキテクチャおよびインストールオプションの概要についても説明しています。
- **第2章「Microsoft Windows への Hyperion Analyzer のインストール」**では、Hyperion Analyzer を Microsoft Windows 動作環境にインストールするためのサーバ、スタンドアロンクライアント、およびクライアントのシステム要件と、インストール手順について説明しています。
- **第3章「インストール内容」**では、Hyperion Analyzer のディレクトリ構造について説明し、各ディレクトリの概要を示します。これによって、構成ファイル、ドキュメント、アプリケーションのフォルダやファイルを簡単に見つけることができます。
- **第4章「IBM WebSphere への Hyperion Analyzer の展開」**では、Hyperion Analyzer を既存の IBM WebSphere アプリケーション サーバにインストールするための特定の指示について説明しています。
- **第5章「BEA WebLogic への Hyperion Analyzer の展開」**では、Hyperion Analyzer を既存の BEA WebLogic アプリケーションサーバにインストールするための特定の指示について説明しています。
- **第6章「スクリプトによるレポートの作成」**では、データベース レポジトリおよびサポートする RDBMS システムのデータベース テーブルを作成するための手順について説明しています。
- **第7章「Hyperion Analyzer サンプル レポートのインポート」**では、Hyperion Analyzer および API Toolkit サンプル レポートを Java Web Client にインポートする手順を示しています。
- **第8章「Hyperion Analyzer のアンインストール」**では、Windows オペレーティングシステムから Hyperion Analyzer をアンインストールする手順を示しています。

製品マニュアル

情報マップ

『Hyperion Analyzer 情報マップ』には、すべての Hyperion Analyzer マニュアルに関する説明とその保存場所が含まれています。

▶ 情報マップを表示するには、次の手順を実行します。

1. 次のいずれかの操作を行います。

- Hyperion Analyzer の[起動]ページで、[情報マップ]をクリックします。
- ブラウザ ウィンドウに次の URL を入力します。

`http://<server>/Help/en/InformationMap/information_map.htm`

ユーザーズ ガイド（入門編）

『Hyperion Analyzer ユーザーズ ガイド（入門編）』では、Hyperion Analyzer の概要、多次元分析を中心とした用語、アプリケーションの基本操作およびグラフィカル ユーザ インターフェイスについて説明し、また、初めて使用されるユーザ向けに Hyperion Analyzer Java Web Client を使用したレポートの作成手順を紹介しています。

新機能

『Hyperion Analyzer 新機能』では、今回リリースされた Hyperion Analyzer の新しい機能について説明しています。

クライアント オンライン ヘルプ

Java Web Client オンライン ヘルプ

『Hyperion Analyzer Java Web Client オンライン ヘルプ』では、ナビゲーション、レポート作成および Java Web Client に関して詳細に説明しています。

HTML Web Client オンライン ヘルプ

『Hyperion Analyzer HTML Web Client オンライン ヘルプ』では、ナビゲーション、レポート作成、および Hyperion Analyzer HTML Web Client 特有の機能について説明しています。

マニュアルの入手方法

Hyperion Analyzer のマニュアルはすべて、下記の場所から入手できます。

- HTML 形式の情報マップは、次の場所にあります。

http://<server>/Help/en/InformationMap/information_map.htm

- オンライン ヘルプには、各製品からアクセスできます。製品を起動して、[ヘルプ]ボタンまたは[ヘルプ]メニューの該当項目をクリックします。
- 米国 Hyperion Solutions の Web サイト (<http://www.hyperion.com>) の情報を参照します。

▶ Hyperion Solutions Web サイトで配布されているマニュアルを入手するには、次のようにします。

1. <http://www.hyperion.com> にログオンします。
2. メニューバーから [Support] を選択します。
3. ユーザ名とパスワードを入力し、[Login] をクリックします。

メモ： ユーザ名とパスワードがない場合は、ログインページの左側にある [New User Registration] をクリックして、入手してください。

4. [Order/Download Documentation] を選択します。
5. [Product] リスト ボックスの [Hyperion Analyzer] を選択します。
6. [Display] リスト ボックスの [Documentation] を選択し、[Submit] をクリックします。

- ▶ Hyperion Download Center からマニュアルを入手するには、次のようにします。
 1. <http://hyperion.subscribenet.com> にログインします。
 2. [Login ID] と [Password] テキスト ボックスに、取得したログイン ID とパスワードを入力し、[Login] をクリックします。
 3. ダウンロード センターのアカウントを複数取得している場合は、いずれかのアカウントを使用します。
 4. [Product List] から [Hyperion Analyzer] を選択します。
 5. [New Releases] タブをクリックし、[Hyperion Analyzer 6.5] を選択します。

表記規則

次の表に、このガイドで使用されている表記規則を示します。

表 i: このマニュアルで使用されている表記規則


項目	意味
	矢印は、連続する手順の開始を示します。
角かっこ []	コード例などで使用されている場合、角かっこで囲まれた要素はオプションを示します。本文中で使われる場合は、画面に表示される UI 要素を示します。
太字	手順内で使用されている太字は、主要なインターフェース要素を示します。
大文字	大文字はコマンドとさまざまな ID を示します。 (例: CLEARBLOCK コマンド)
[Ctrl] + [0]	プラス記号 (+) によって示されるキー操作の組み合わせは、最初のキーを押したまま、次のキーを押すことを示します。プラス記号 (+) は入力しません。
Example text	クーリエ フォントは、コードまたは構文例を示します。
<i>Courier italics</i>	クーリエ フォントの斜体テキストは、コマンド構文の変数フィールドを表します。クーリエ斜体で示された変数の場所には、値を代入します。
<i>ARBORPATH</i>	環境変数 <i>ARBORPATH</i> が斜体で表示されている場合は、ユーザのサイトの <i>ARBORPATH</i> 値に置き換えます。

表 i: このマニュアルで使用されている表記規則 (続き)

項目	意味
n, x	斜体の n は変数値を表し、斜体の x は変数値またはアルファベットを表します。変数は通常、式の中に含まれています。
省略記号 (...)	省略記号は、例からテキストが省略されていることを示します。
マウスの種類	このガイドで説明されている例および手順は、右手用のマウスを対象としています。左手用のマウスを使用している場合は、適宜手順を調整してください。
メニュー オプション	メニューのオプションは、次のように示します。角かっこ内を例で示すように適切なオプション名で置き換えてください。 [メニュー名] > [メニュー コマンド] > [拡張メニュー コマンド] 例: 1. [ファイル] > [デスクトップ] > [勘定科目] の順に選択します。

その他のサポート

マニュアルやオンライン ヘルプの他にも、製品情報について次のサポートが提供されています。

印刷版マニュアルの注文方法

印刷版マニュアル (英語版) のご注文は、次のいずれかの方法でお願いします。

- Hyperion Solutions の Web サイト (<http://www.hyperion.com>) にアクセスしてください。
- 米国内からは、Hyperion Solutions Customer Support (877-901-4975) にご連絡ください。
- 米国、カナダ以外の地域の方は、米国 Hyperion Solutions Customer Support (米国 203-703-3600) までご連絡いただくか、最寄りのカスタマー サポートまでご連絡ください。

トレーニング サービス

Hyperion では、インストラクタによるトレーニング、カスタム トレーニングおよび e-トレーニングを含む、各種トレーニング オプションを提供しています。このサービスはすべての Hyperion アプリケーションと技術を網羅しており、エンド ユーザ、管理者、および情報システム (IS) のプロフェッショナル向けに提供されています。

インストラクタによるトレーニングは、多様でグローバルな Hyperion のお客様に合わせた形式と場所で提供されます。Hyperion 認定トレーニング センターでは、Hyperion が開発したコースを提供しています。カスタム トレーニング サービスのトレーニングでは、ユーザの生産性を高め、日常業務を円滑に遂行するためのノウハウが提供されます。トレーニングで使われるアプリケーションは、従業員が実際の業務で使用するものと同じように構成、調整されています。e-トレーニングと呼ばれるサービスは、コンピュータベース トレーニング、Web ベース トレーニング、双方向仮想クラスルーム トレーニングの総称であり、ユーザが製品の機能を実際に使用しながら学ぶための費用効率の高い手段を提供します。コンピュータベースのトレーニング (CBT) および Web ベースのトレーニング (WBT) は、所在地に関係なく利用できる、ユーザにとって便利で高品質な対話型トレーニングです。

日本でのトレーニングの詳細は、Hyperion トレーニング センター (03-5545-9280) にご照会ください。弊社の Web サイト

<http://www.hyperion.co.jp/training/index.html> でもご案内しております。

コンサルティング サービス

Hyperion コンサルティング サービスは、お客様が Hyperion 製品を最大限活用し、投資の利益を最大化するための支援を行います。経験豊富な Hyperion コンサルタントと Hyperion の提携パートナー会社が、レポートिंग、分析、モデリング、およびプランニングなどの特定の要件に適合したソリューションによって組織を支援いたします。特定のサービスとして、実装コンサルティング、カスタム ビジネスソリューション、データ統合、およびテクニカル コンサルティングなどを行います。これ以外にも、Hyperion はさまざまなサービス パッケージと設計の見直しを提供します。

日本でのコンサルティング サービスの詳細は、サービス代表 (03-5545-9280) にお問い合わせください。

テクニカル サポート

ハイペリオンのお客様およびハイペリオンと直接保守契約を締結されているお客様は、ホットライン サポートをご利用いただけます。電話 (03-5545-9320) または電子メール (japan_support@hyperion.com) のいずれかの方法でご連絡ください。なお、パートナー様経由でハイペリオン製品をご購入いただきましたお客様の製品サポートにつきましては、ご購入元のパートナー様サポート部門にお問い合わせください。Web ベースのサポート、または利用可能なサポート オプションの詳細は、弊社の Web サイト (<http://www.hyperion.co.jp>) を参照してください。または、米国、カナダ以外の地域の方は、米国 Hyperion Solutions Customer Support (米国 203-703-3600) までご連絡いただくか、最寄りのカスタマー サポートまでご連絡ください。

マニュアルに対するご意見、ご感想

Hyperion では、充実した、情報の正確なマニュアルをお届けできるよう、ユーザの皆様からの貴重なご意見、ご感想をお待ちしています。マニュアルに関するご意見、ご感想を、弊社サイト (<http://www.hyperion.com>) にあるアンケートにご記入いただければ幸いです (ただし、アンケートは現在、英語のみとなっております)。

Hyperion Analyzer は、次のコンポーネントで構成されています。

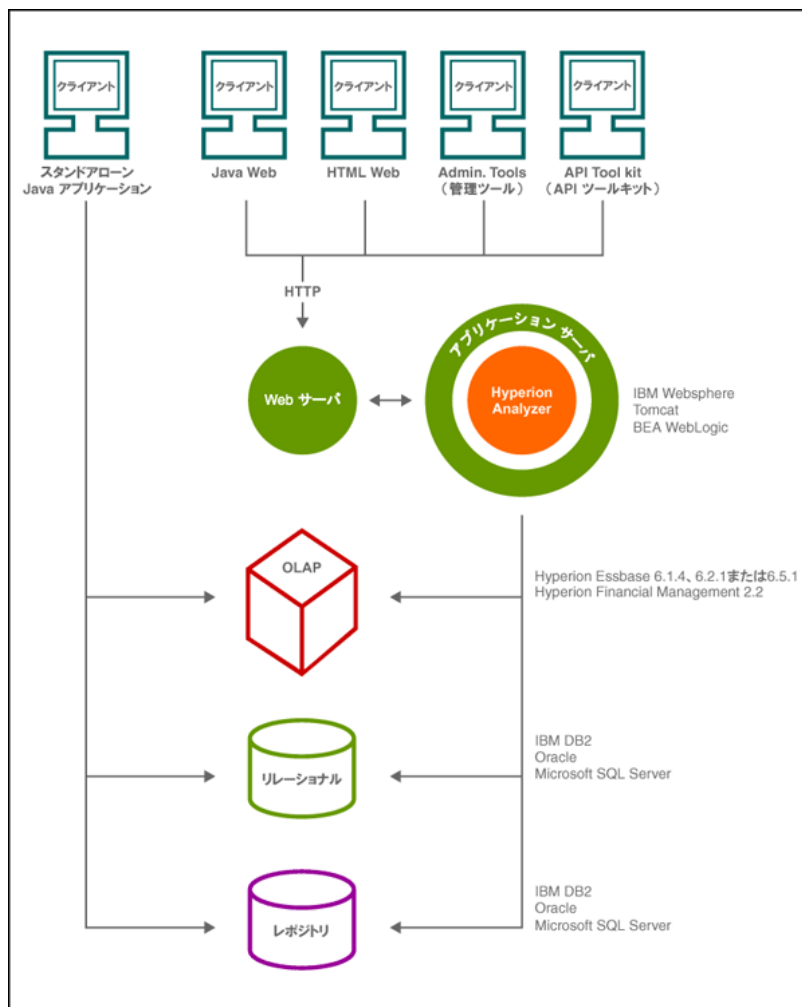
- **レポジトリ**：Hyperion Analyzer システムデータ、ユーザ名、ユーザ設定およびレポート定義をリレーショナル データベース テーブルにまとめて格納するための場所です。
- **Hyperion Analyzer Analysis Server**：サーブレットベースの Web アプリケーションで、J2EE アプリケーション サーバに常駐しています。Analysis Server を使用すると、レポートを HTML または Java クライアントで表示することができ、Web ベースでユーザ管理を行うことができます。
- **Hyperion Analyzer Administration Tools**：サポートしている Web ブラウザに対して Java グラフィカル インターフェイスを提供し、ユーザ、ユーザ グループおよびデータベース接続を管理できるクライアントです。また、複数の管理ユーティリティにもアクセスできます。
- **Hyperion Analyzer Java Web Client**：データのオンライン分析を可能にするクライアントです。ユーザは、コードの記述をしなくても、カスタム分析アプリケーションの設計とデザインを行うことができます。通常、Hyperion Analyzer は、売上、主要実績、財政および予測分析を行うために使用します。
- **Hyperion Analyzer Windows Client**：Java Web Client と同じインターフェイスおよび機能を持つ、Hyperion Analyzer でサポートしている Microsoft Windows オペレーティング システム用の Java アプリケーションです。
- **Hyperion Analyzer HTML Web Client**：Hyperion Analyzer でサポートしている Web ブラウザから使用できる HTML シンクライアントです。Hyperion Analyzer HTML Web Client は、高度なデザインやコンテンツ作成機能を必要としない、情報利用者向けに設計されています。
- **Hyperion Analyzer API Toolkit**：開発者はこのツールを使って Hyperion Analyzer Java Web Client の画面表示と機能をカスタム Web アプリケーションに統合できます。

アーキテクチャの概要

Hyperion Analyzer の機能は、次の多層アーキテクチャ間で分散されて処理されます。

- クライアント層
- サーバ層
- データベース層

図1: Hyperion Analyzer 機能のアーキテクチャ



クライアント層には、3つの Web ブラウザ クライアントと API ツールキットが含まれます。クライアントはすべて、Hypertext Transmission Protocol (HTTP) を使用して Hyperion Analyzer システム内の他のコンポーネントと交信します。

サーバ層には、次のコンポーネントが含まれています。

- Web サーバ
- J2EE アプリケーションサーバ
- Hyperion Analyzer Analysis Server
- データベース サーバ レイヤと通信するためのドライバとプロトコル

データベース層では、OLAP とリレーショナルデータベース、さらにリレーショナル Hyperion Analyzer レポジトリをサポートします。また、Hyperion Financial Management および Hyperion Planning へのデータソースの接続性も提供されています。

Web サーバは、Web Client で起動する Web ページの表示、Java コンポーネントを含むファイルの引き渡し、および実行時に生成されるイメージの転送を処理する必要があります。クライアント接続の確立後、Web サーバは、すべてのクライアント中間層の HTTP 通信を管理します。

Hyperion Analyzer は、J2EE アプリケーション サーバ内部で実行されます。サポートされている J2EE アプリケーション サーバにより、Hyperion Analyzer ビジネス ロジック、ネットワーク トラフィック、多数の同時実行ユーザに対するアプリケーションのセキュリティを共有し、負荷分散およびフォルト トレランスの機能を実現しています。

インストール時に Hyperion Analyzer が J2EE アプリケーション サーバに展開され、RDBMS で選択されたレポジトリ オプションに Hyperion Analyzer テーブルが作成されます。クライアントとの通信には Web サーバが使用されます。

展開オプション

Hyperion Analyzer では、柔軟性の高いシステム構成が可能です。構成オプションは、いくつかの要因によって決定されます。これらの要因のうち、システムの展開時に考慮すべき事項を次に示します。

- 現在のハードウェアおよびソフトウェア
- 将来のハードウェアおよびソフトウェア
- データの量
- 構成の容易さとパフォーマンスとのバランス

意思決定の手助けとなるように、Hyperion では次のような展開オプションの検討をお勧めします。

[19 ページの「展開オプション 1」](#)

[20 ページの「展開オプション 2」](#)

[21 ページの「展開オプション 3」](#)

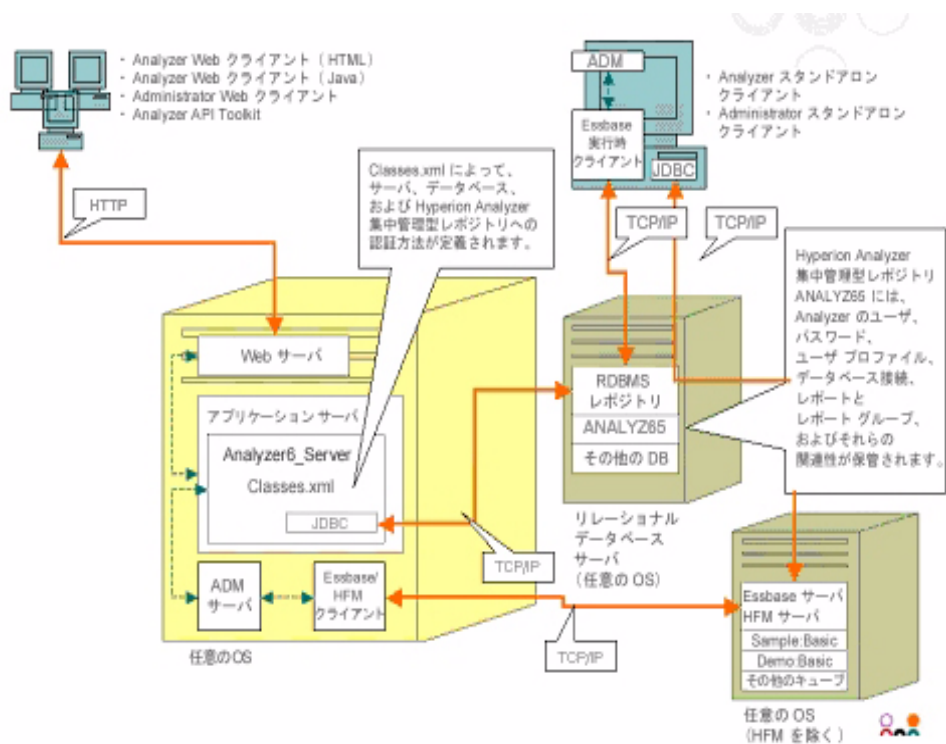
[22 ページの「展開オプション 4」](#)

[23 ページの「Windows スタンドアロン クライアント オプション」](#)

展開オプション1

最初のオプションは、中規模から大規模の構成に適用できます。このオプションでは、Web サーバおよびアプリケーション サーバは同一のコンピュータ上にありますが、RDBMS レポジトリやデータソースからは別のサーバに配置します。最も一般的な構成であり、このオプションの採用を強くお勧めします。各コンポーネントを分離することで、高いスケーラビリティが得られ、各ハードウェア コンポーネントを必要に応じて個々にアップグレードすることができます。

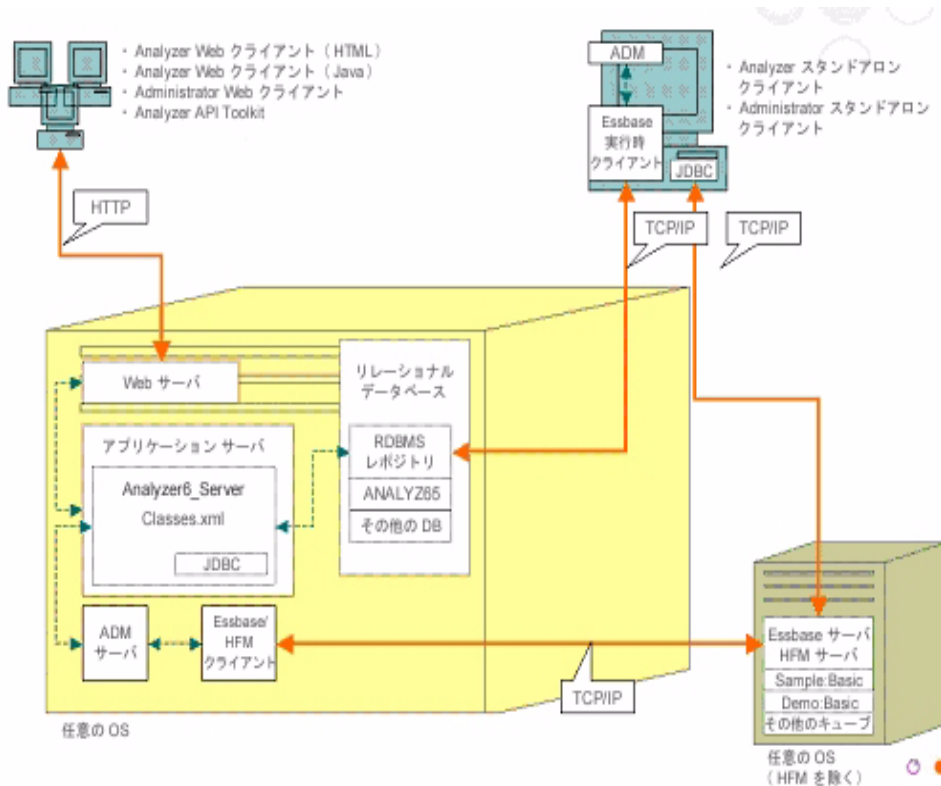
図2: Hyperion Analyzer 展開オプション 1



展開オプション2

この構成では Web サーバ、アプリケーション サーバおよび RDBMS レポジトリが同一のコンピュータ上に設定されますが、データ ソースは別のサーバに置かれます。この構成オプションは、中規模の展開用に使用されます。

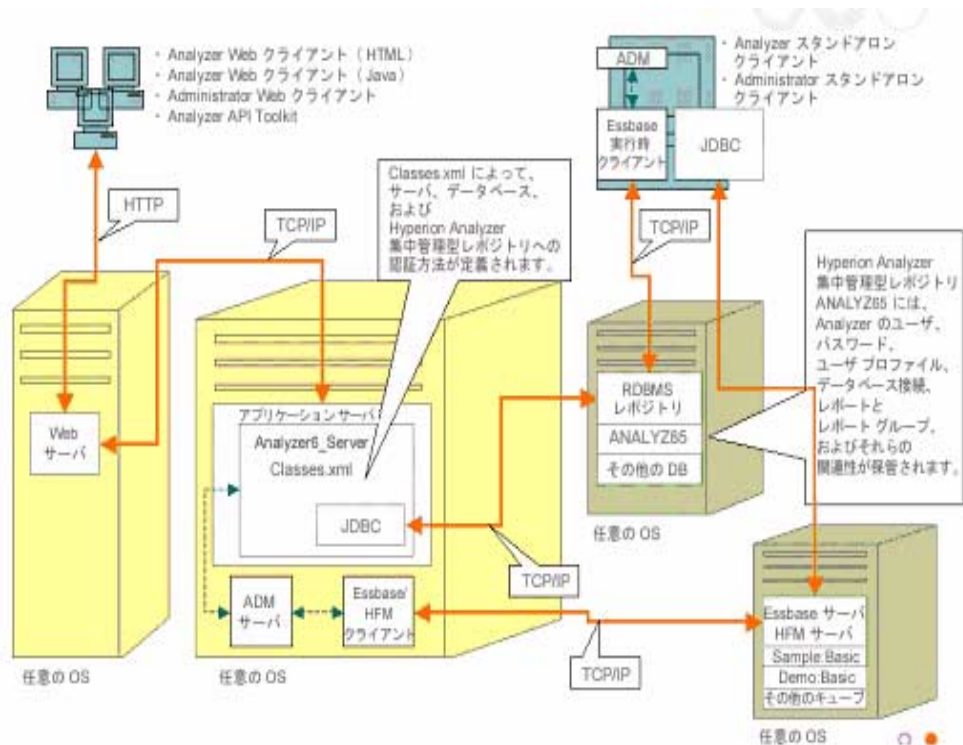
図3: Hyperion Analyzer 展開オプション 2



展開オプション 3

3 番目のオプションは、大規模な企業システムへの適用を目的としたもので、Hyperion Analyzer を統合することで既存のシステム構成を活用できるようにします。Web サーバおよびアプリケーション サーバを別々のコンピュータに設定し、RDBMS レポジトリおよびデータ ソースもそれぞれ個別のコンピュータに配置します。この構成オプションは、一元化された Web サーバ構成を備えた企業にとって最も一般的なオプションです。ただしこのオプションは、Web サーバおよびアプリケーション サーバの構成についてかなりの知識が必要です。

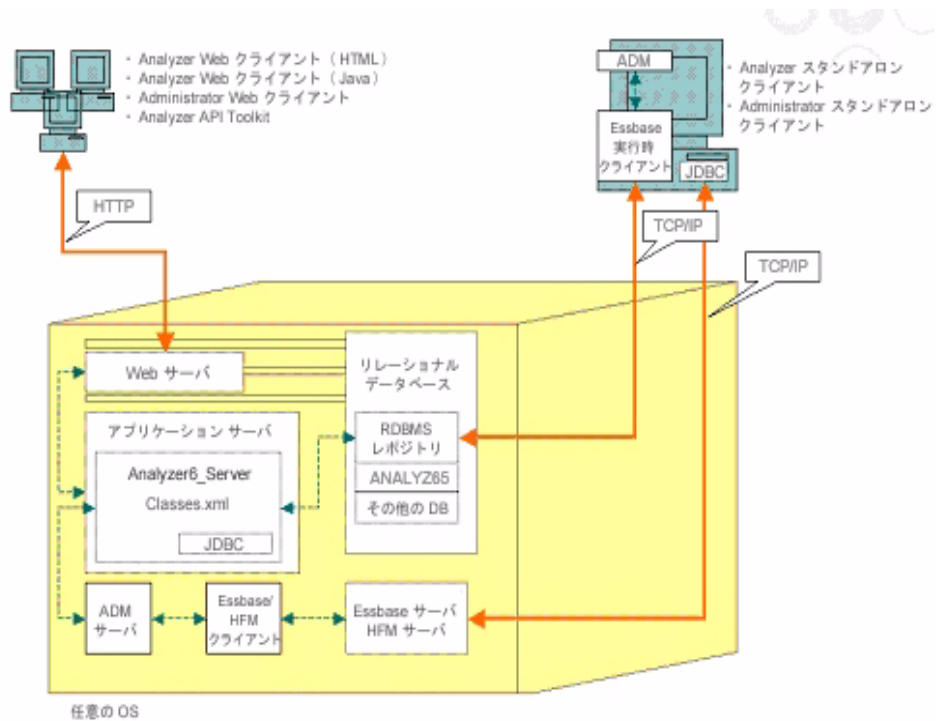
図4: Hyperion Analyzer 展開オプション 3



展開オプション 4

4 番目のオプションは、小規模の展開、テストおよびプロトタイプ用として最も適しています。Web サーバ、アプリケーション サーバ、Essbase/Hyperion Financial Management および RDBMS レポジトリがすべて同一のサーバ上に置かれます。このオプションは、サーバが複数の CPU を備えている場合や RAM の可用性が最大化されている場合を除いて、多数の同時実行処理が行われる環境では使用しないことをお勧めします。

図 5: Hyperion Analyzer 展開オプション 4



Windows スタンドアロンクライアントオプション

前述の各展開オプションには、Windows 環境でスタンドアロンクライアントを実装するためのオプションが含まれています。このオプションは、Web サーバやアプリケーションサーバを使用せずに、TCP/IP による Hyperion Analyzer レポジトリ、RDBMS および OLAP データソースへの接続性を提供します。このオプションの欠点は、JDBC ドライバと Hyperion Essbase クライアントが必要な点です。これによって、比較的単純な HTML ベースのクライアントや Java アプレットが複雑化してしまいます。

インストールオプション

Hyperion Analyzer のインストールには、次のオプションがあります。

- Microsoft Windows へのインストール：Microsoft Windows への Hyperion Analyzer のインストール用に、`setup.exe` インストールファイルが用意されています。インストール先として Apache Tomcat 4.1.x アプリケーションサーバ、既存の Apache Tomcat 4.0.4 以降、IBM WebSphere または BEA WebLogic アプリケーションサーバを選択できます。詳細は、第2章「Microsoft Windows への Hyperion Analyzer のインストール」を参照してください。
- UNIX オペレーティングシステムへのインストール：IBM AIX、HP-UX または Sun Solaris UNIX オペレーティングシステムへの Hyperion Analyzer Analysis Server のインストール用に、`setup_aix.sh`、`setup_hpux.sh` および `setup_solaris.sh` シェル スクリプトが用意されています。使用しているオペレーティングシステムに基づいて、インストール先として Apache Tomcat 4.1.x アプリケーションサーバ、既存の Apache Tomcat 4.0.4 以降、IBM WebSphere または BEA WebLogic アプリケーションサーバを選択できます。詳細は、『Hyperion Analyzer インストールガイド (UNIX 用)』のを参照してください。
- アプリケーションサーバへの手動による展開：Analyzer とともに提供されているアプリケーションサーバを使用しない場合は、Hyperion Analyzer を任意のアプリケーションサーバに手動で展開することができます。次のオプションがあります。
 - IBM WebSphere へのインストール：すでにインストール済みのアプリケーションサーバに Hyperion Analyzer を手動で展開する必要があります。詳細は、第4章「IBM WebSphere への Hyperion Analyzer の展開」を参照してください。

- BEA WebLogic へのインストール : すでにインストール済みのアプリケーション サーバに Hyperion Analyzer を手動で展開する必要があります。詳細は、[第5章「BEA WebLogic への Hyperion Analyzer の展開」](#)を参照してください。

この章では、サーバまたはクライアントシステムに Hyperion Analyzer をインストールするために必要な情報の準備や実行手順について説明します。内容は次のとおりです。

- 25 ページの「システム要件」
- 29 ページの「Hyperion Analyzer をインストールする前に」
- 32 ページの「インストールの概要」
- 32 ページの「Hyperion Analyzer のインストール」
- 51 ページの「Hyperion Analyzer インストール後の作業」
- 56 ページの「Hyperion Essbase OLAP サーバの起動」
- 60 ページの「Microsoft IIS Web Server の設定」

システム要件

この項では、Hyperion Analyzer を Microsoft Windows にインストールするための前提条件について説明します。インストールに関して、次の一般的なシステム要件と、アプリケーション特有のシステム要件を満たす必要があります。

サーバのシステム要件

表 2: Hyperion Analyzer Server のシステム要件

コンポーネント	要件
プロセッサ	450 MHz CPU
メモリ	512 MB RAM
空きディスク容量	1 GB の処理スペース

表2: Hyperion Analyzer Server のシステム要件 (続き)

コンポーネント	要件
オペレーティングシステム	次のいずれかのオペレーティングシステム： <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Windows NT 4 (Service Pack 6a) • Microsoft Windows 2000 (Service Pack 3)
Web ブラウザ	次のいずれかのブラウザ： <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Internet Explorer 5.5 または 6.0 • Netscape Navigator 6.2 または 7.0
Java プラグイン	1.3.0_02 または 1.3.1_07
スプレッドシートアドイン	Microsoft Excel 97 (sp1 または 2)、2000 または XP
周辺機器	<ul style="list-style-type: none"> • SVGA モニタ、800 x 600 解像度 • CD-ROM ドライブ
ネットワーク接続	TCP/IP
アプリケーションサーバ	次のいずれかのサーバ： <ul style="list-style-type: none"> • Tomcat 4.0.4 • Tomcat 4.1.18 (Analyzer に同梱) • IBM WebSphere 4.0.5 Advanced Edition または Advanced Edition Single Server • IBM WebSphere 5.0、Express または Enterprise Edition • BEA WebLogic 6.1.4 (Service Pack 3 に対応済み) • BEA WebLogic 7.0
OLAP サーバ	次のいずれかのサーバ： <ul style="list-style-type: none"> • Hyperion Essbase 6.2.4 または 6.5.4 • IBM DB2 OLAP Server 7.1 (FixPak 11) • IBM DB2 OLAP Server 8.1 (FixPak 2)
リレーショナルデータソース	Hyperion Financial Management 3.0.3 または 3.0.4 Hyperion Planning 3.3

表2: Hyperion Analyzer Server のシステム要件 (続き)

コンポーネント	要件
リレーショナルサーバ	次のいずれかのサーバ： <ul style="list-style-type: none"> • IBM DB2 7.2 Enterprise Personal Edition (Analyzer に同梱)、JDBC 2.0 • IBM DB2 8.1 Enterprise Server Edition • Microsoft SQL Server 2000、SP3、MS SQL Server JDBC ドライバ • Oracle 8.1.7 または 9.2.1、専用の JDBC ドライバ • Teradata 4.1
その他	<ul style="list-style-type: none"> • Hyperion Essbase の適切なバージョンの実行時クライアント • Adobe Acrobat Reader 5.0

スタンドアロンクライアントのシステム要件

表3: Hyperion Analyzer スタンドアロンクライアントのシステム要件

コンポーネント	要件
プロセッサ	450 MHz CPU
メモリ	256 MB RAM
空きディスク容量	25 MB
オペレーティングシステム	次のいずれかのオペレーティングシステム： <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Windows NT 4.0 (Service Pack 6a) • Microsoft Windows 2000 (Service Pack 3) • Microsoft Windows XP
Web クライアントのブラウザ	次のいずれかのブラウザ： <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Internet Explorer 5.5 または 6.0 • Netscape Navigator 6.2 または 7.0
Java クライアントのブラウザ	次のいずれかのブラウザ： <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Internet Explorer 4、5 または 6 • Netscape Navigator 4.7、6.1 または 6.2

表3: Hyperion Analyzer スタンドアロン クライアントのシステム要件 (続き)

コンポーネント	要件
Java クライアントの Java プラグイン	Sun Java Plug-in 1.3.0_02 または 1.3.1_07 メモ: Hyperion Analyzer を初めて使用するときに自動的にインストールされます。
リレーショナル レポジトリ	次のいずれかのレポジトリ : <ul style="list-style-type: none"> • IBM DB2 7.2 Enterprise Personal Edition、JDBC 2.0 • IBM DB2 8.1 Enterprise Server Edition、JDBC 2.0 • Microsoft SQL Server 2000、SP3、MS SQL JDBC • Oracle 8.1.7 または 9.2.1
その他	<ul style="list-style-type: none"> • Hyperion Essbase の適切なバージョンの実行時クライアント メモ: Hyperion Essbase へアクセスするには、対応する Hyperion Essbase 実行時クライアントが J2EE アプリケーション サーバとともにインストールされている必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> • Adobe Acrobat Reader 5.0

クライアントのシステム要件

表4: Hyperion Analyzer クライアントのシステム要件

コンポーネント	要件
プロセッサ	450 MHz CPU
メモリ	512 MB RAM
空きディスク容量	25 MB
オペレーティング システム	次のいずれかのオペレーティング システム : <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Windows NT 4.0 (Service Pack 6a) • Microsoft Windows 2000 (Service Pack 3) • Microsoft Windows XP
Web クライアントの ブラウザ	次のいずれかのブラウザ : <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Internet Explorer 5.5 または 6.0 • Netscape Navigator 6.2 または 7.0

表4: Hyperion Analyzer クライアントのシステム要件 (続き)

コンポーネント	要件
Java クライアントのブラウザ	次のいずれかのブラウザ： <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Internet Explorer 4、5 または 6 • Netscape Navigator 4.7、6.1 または 6.2
Java クライアントの Java プラグイン	Sun Java Plug-in 1.3.0_02 または 1.3.1_07 メモ: Hyperion Analyzer を初めて使用するときに自動的にインストールされます。
その他	Adobe Acrobat Reader 5.0

Hyperion Analyzer をインストールする前に

Hyperion Analyzer をインストールする前に、現在のシステム環境への適用性を調べる作業と、他にも考慮すべき事項がいくつかあります。ここでは、次の内容について説明します。

- 29 ページの「インストール前のチェックリスト」
- 30 ページの「[RDBMS に関する考慮事項](#)」
- 32 ページの「[既存のレポジトリのバックアップ](#)」

インストール前のチェックリスト

Hyperion Analyzer をインストールする前に、インストール状況に合わせて次の作業を行ってください。

- すべての権利を持つ管理者 (Administrator) としてサーバにログオンします。
- 使用環境がシステム要件に準拠していることを確認します。
- システムに以前のリリースの Hyperion Analyzer がインストールされている場合は、その Hyperion Analyzer レポジトリのバックアップを作成します。詳細は、32 ページの「[既存のレポジトリのバックアップ](#)」を参照してください。
- サーバ名とパス名を確認します。サーバ名には "localhost" は使用しないでください。

- Hyperion Essbase OLAP サーバおよび RDBMS の有効なユーザ名とパスワードがあることを確認します。

メモ：ログオン アカウント名として "System" は使用できません。重複したログオン名やパスワードも使用できません。ログオン名が一意であり、8 文字以下であることを確認してください。

- Hyperion Financial Management を OLAP サーバとして使用する場合、Hyperion Financial Management クライアントがアプリケーション サーバと同じコンピュータにインストールされていることを確認します。
- 使用している RDBMS レポジトリに適した JDBC ドライバがあることを確認します。
- プリインストールされた Apache Tomcat アプリケーションサーバを使用している場合は、サーバが停止していることを確認します。
- プリインストールされた RDBMS システムを使用している場合は、サービスが開始されていることを確認します。

RDBMS に関する考慮事項

IBM DB2 Version 7.2

Hyperion Analyzer のリレーショナル レポジトリとして IBM DB2 7.2 を使用する場合は、JDBC 2.0 ドライバを使用するように DB2 を構成し、次のレポジトリが要件を満たしていることを確認してください。

- Enterprise Personal Edition
- Enterprise Server Edition

▶ JDBC 2.0 ドライバを使用するように DB2 RDBMS を構成するには、次のようにします。

1. データベース サービスを停止します。
2. usejdbc2.bat を sqllib¥java12 サブディレクトリから実行します。

メモ：IBM DB2 8.1 に JDBC ドライバを構成する場合、db2jcc.jar ファイルが db2java.zip ファイルと同じディレクトリ内にあることを確認してください。

3. データベース サービスを再開します。

メモ：既存の DB2 データベースに Hyperion Analyzer レポジトリをインストールする場合は、インストールを完了するためにユーザ名とデータベース情報を指定する必要があります。ユーザ名は、データベースにすでに割り当てられている名前を指定する必要があります。

Enterprise Server および Personal Edition

- サーバの場所とパスを指定する場合は、大文字と小文字を区別してデータベースサーバ名を入力します。サーバ名には "Localhost" を使用しないでください。
- ユーザ名は半角で 8 文字以内にしてください。

IBM DB2 Enterprise Server Edition のみ

- ユーザ名には、データベース接続のためのアクセス権が必要です。
- RDBMS レポジトリを作成するには、インストールの前にデータベースとユーザ名を作成しておく必要があります。

Microsoft SQL Server 2000

- Hyperion Analyzer をインストールする前に、適切な JDBC ドライバを <http://msdn.microsoft.com/downloads/> からダウンロードする必要があります。インストール時に、JDBC ドライバの場所を指定する画面が表示されます。
- インストールの前にデータベースまたはログオン情報を作成しないでください。必要なログオン情報は、インストール時にデータベース内に作成されます。

Oracle

- Oracle でテーブルスペースを作成するには、root としてログオンする必要があります。
- サーバの場所とパスを指定する場合は、大文字と小文字を区別してテーブルスペースサーバ名を入力します。サーバ名には "Localhost" を使用しないでください。
- インストールの前にテーブルスペースまたはユーザ名を作成しないでください。インストーラによってデータベース内にテーブルスペースおよびユーザ名が作成されます。

既存のレポジトリのバックアップ

今回のリリースの Hyperion Analyzer では、レポジトリのデータベース テーブルが再編成されました。インストール時に、テーブルは新しい構造に移行されます。したがって、インストールの前に既存レポジトリのバックアップを作成しておく必要があります。テーブル構造が変更されたので、以前のリリースの Hyperion Analyzer レポジトリは今回のリリースの Hyperion Analyzer とは互換性はありません。

インストールの概要

Hyperion Analyzer を正しくインストールするには、次のタスクが必要です。

- インストール作業で使用する言語を選択します。
- 使用モードとセットアップの種類を選択します。
- 使用許諾契約書に同意します。
- アプリケーション サーバを選択し、設定します。
- RDBMS を選択し、設定します。
- Hyperion Analyzer を設定します。
- インストールの概要を確認します。
- インストールを完了します。
- システムのソフトウェアを設定します。

Hyperion Analyzer のインストール

次に、Hyperion Analyzer のインストール手順を説明します。

メモ：Hyperion Analyzer のインストール時には、[戻る]ボタンまたは[次へ]ボタンをクリックして、ウィンドウ間を移動できます。インストールを終了するには、[終了]ボタンをクリックします。

▶ Hyperion Analyzer をインストールするには、次のようにします。

1. 次のいずれかの操作を行います。

- Hyperion Analyzer CD がある場合は、CD-ROM ドライブにその CD を挿入します。
- Hyperion Analyzer ソフトウェアを FTP サイトまたは Hyperion のダウンロードセンターから入手した場合は、次のいずれかを行います。
 - インストール アプリケーションをダウンロードしたディレクトリに移動し、**setup.exe** をダブルクリックします。
 - Windows デスクトップから[スタート]>[ファイル名を指定して実行]をクリックし、<drive>:¥<path>¥setup.exe と入力して[OK]をクリックします。ここで、<drive> と <path> は、Hyperion Analyzer インストールプログラムの場所です。

[言語の選択]ウィンドウが表示されます。

図6: [言語の選択]ウィンドウ



2. インストール ウィザードで使用する言語を選択し、[次へ]をクリックします。
[よろこそ]ウィンドウが表示されます。

図7: Hyperion Analyzer インストール ウィザードの[よろこそ]ウィンドウ



3. [次へ]をクリックします。

使用モードの[ライセンス情報の入力]ウィンドウが表示されます。

図8: Hyperion Analyzer インストール ウィザードの使用モードの[ライセンス情報の入力]ウィンドウ



4. 次のいずれかの使用オプションを選択します。
 - Hyperion Analyzer の評価版をインストールするには、[評価版]を選択します。
 - Hyperion Analyzer のライセンス版をインストールするには、[ライセンス済み]を選択し、有効なライセンス キーを入力します。

メモ：ライセンス キーは、Hyperion Download Center
(<http://hyperion.subscribenet.com>) から入手できます。

5. [次へ]をクリックします。

[セットアップの種類]ウィンドウが表示されます。

図9: Hyperion Analyzer インストール ウィザードの[セットアップの種類]ウィンドウ



6. 次のいずれかの使用オプションを選択します。

- Windows スタンドアロンクライアント オプションをインストールするには、[Windows Client コンポーネント]を選択します。これにより、別のコンピュータにインストールされている Hyperion Analyzer に TCP/IP を使用してアクセスするために必要なファイルがインストールされます。
- クライアントおよびサーバのソフトウェアをインストールするには、[Enterprise Edition]をクリックします。これにより、HTTP および TCP/IP によりアクセスされるアプリケーション サーバに Hyperion Analyzer がインストールされます。

7. [次へ]をクリックします。

[使用許諾契約書]ウィンドウが表示されます。

図 10: Hyperion Analyzer インストール ウィザードの[使用許諾契約書]ウィンドウ



8. 使用許諾契約書を確認したら、[同意する]を選択し、[次へ]をクリックします。

[アプリケーションサーバの種類を選択]ウィンドウが表示されます。

メモ：手順 6 で[Windows Client コンポーネント]を選択した場合は42 ページの手順 12 に進みます。アプリケーションサーバの選択と構成は、Windows Client のインストールでは行いません。

図 11: Hyperion Analyzer インストール ウィザードの[アプリケーションサーバの種類を選択]ウィンドウ



9. 次のいずれかのアプリケーションサーバ オプションを選択します。

- Tomcat 4.1 - Hyperion Analyzer を既存の Apache Tomcat 4.1 アプリケーションサーバにインストールします。
 - オプション : [Tomcat 4.1.18 のインストール] を選択します。アプリケーションサーバをまだインストールしていない場合は、Apache Tomcat 4.1.18 および Hyperion Analyzer が "batteries included" オプションの一部としてインストールされます。

- Tomcat 4.0 - Hyperion Analyzer を既存の Apache Tomcat 4.0.4 アプリケーションサーバにインストールします。
- IBM WebSphere 4 - Hyperion Analyzer を既存の IBM WebSphere 4.0.5 アプリケーションサーバにインストールします。
- IBM WebSphere 5 - Hyperion Analyzer を既存の IBM WebSphere 5 アプリケーションサーバにインストールします。
- WebLogic 6.1 - Hyperion Analyzer を既存の BEA WebLogic 6.1 アプリケーションサーバにインストールします。
- WebLogic 7.0 - Hyperion Analyzer を既存の BEA WebLogic 7.0 アプリケーションサーバにインストールします。

10. [次へ]を選択します。

図 12 に示すように、[アプリケーション サーバの設定]ウィンドウが表示されます。Hyperion Analyzer では、3つのアプリケーションサーバと、それぞれに2つのバージョンがサポートされています。

図 12: アプリケーション サーバの設定 : Apache Tomcat 4.1.x (デフォルト)



11. 選択したアプリケーション サーバ オプションに基づいて、次の設定を行います。

表5: アプリケーション サーバの設定

アプリケーション サーバ	設定
Apache Tomcat 4.1	<ol style="list-style-type: none"> 1. [Web サーバ]の一覧から、[デフォルトの使用]または [Microsoft Internet Information Services (IIS)]を選択します。 2. [HTTP ポート アドレス]にアドレス番号を入力します。デフォルトは 80 です。 3. オプション: [詳細]をクリックして、[ホスト別名]にサーバとは異なる名前を指定できます。
Apache Tomcat 4.1 または 4.0 (インストール済み)	<ol style="list-style-type: none"> 1. [アプリケーション サーバの場所]にパスを入力するか、[...] ボタンをクリックしてルート ディレクトリまで遡って参照します。 2. [HTTP ポート アドレス]にアドレス番号を入力します。デフォルトは 80 です。 3. オプション: [詳細]をクリックして、[ホスト別名]にサーバとは異なる名前を指定できます。

表5: アプリケーション サーバの設定 (続き)

アプリケーション サーバ	設定
IBM WebSphere 4 または 5 (プリインストール済み)	<ol style="list-style-type: none"> 1. [アプリケーション サーバの場所]にパスを入力するか、[...] ボタンをクリックしてルート ディレクトリまで遡って参照します。 2. [ノード名]に、Hyperion Analyzer をインストールするサーバの名前を大文字と小文字を区別して入力します。 3. [HTTP ポート アドレス]にアドレス番号を入力します。デフォルトは 80 です。 4. [インストール済みアプリケーションのパス]にパスを入力するか、[...] ボタンをクリックしてルート ディレクトリまで遡って参照します。 5. オプション:[詳細]をクリックして、[ホスト別名]にサーバとは異なる名前を指定できます。
BEA WebLogic 6.1 または 7.0(プリインストール済み)	<ol style="list-style-type: none"> 1. [アプリケーション サーバの場所]にパスを入力するか、[...] ボタンをクリックしてルート ディレクトリまで遡って参照します。 2. [ノード名]に、Hyperion Analyzer をインストールするサーバの名前を大文字と小文字を区別して入力します。 3. [HTTP ポート アドレス]にアドレス番号を入力します。デフォルトは 80 です。 <p>オプション:[詳細]をクリックして、[ホスト別名]にサーバとは異なる名前を指定できます。</p>

12. [次へ]をクリックします。

図 13 に示すように、[RDBMS レポジトリの種類を選択] ウィンドウが表示されます。ここで、Hyperion Analyzer レポジトリのリレーショナル データベースを指定します。また、データベースまたはレポジトリ、あるいはその両方を作成するかどうかも指定します。

図 13: Hyperion Analyzer インストール ウィザードの[RDBMS レポジトリの種類を選択] ウィンドウ



13. 表 6 に示す説明を参照して、[RDBMS レポジトリの種類を選択]から必要なオプションを選択します。

メモ: "batteries included" オプションの一部として既存の RDBMS がない場合は、[DB2 7.2 Personal Edition のインストール]を選択すると、Hyperion Analyzer によって RDBMS がインストールされ、データベースとレポジトリが作成されます。

表6: サポートされている RDBMS オプション

RDBMS	オプション
IBM DB2 7.2 Personal Edition	<ul style="list-style-type: none"> • [レポジトリの作成]- 既存の RDBMS およびデータベースのレポジトリのみを作成します。 • [データベースの作成]- 既存の RDBMS のデータベースおよびレポジトリを作成します。 • [DB2 7.2 Personal Edition のインストール]- "batteries included" インストール オプションによって RDBMS がインストールされ、データベースおよびレポジトリが作成されます。
IBM DB2 7.2 Enterprise Sever Edition	[レポジトリの作成]- 既存のデータベースおよび RDBMS にレポジトリのみを作成します。
IBM DB2 8.1 Enterprise Personal Edition	[レポジトリの作成]- 既存のデータベースおよび RDBMS にレポジトリのみを作成します。
Oracle 8.1.7 または 9i	<ul style="list-style-type: none"> • [レポジトリの作成]- 既存のデータベースおよび RDBMS にレポジトリのみを作成します。 • [テーブルスペースの作成]- 既存の RDBMS にテーブルスペースおよびレポジトリを作成します。 <p>メモ: Oracle でテーブルスペースを作成するには、root ユーザー権限が必要です。</p>
SQL Server 2000	<ul style="list-style-type: none"> • [レポジトリの作成]- 既存のデータベースおよび RDBMS にレポジトリのみを作成します。 • [データベースの作成]- 既存の RDBMS にデータベースおよびレポジトリを作成します。

表 6 に基づいて、次の例からどのオプションを選択するか決定します。

- 初めてインストールするときには、"batteries included" オプションを選択するか、[データベースの作成]、[テーブルスペースの作成]および[レポジトリの作成]を選択します。
- データベースを作成済みの場合は、[レポジトリの作成]を選択します。
- アップグレード時には、すべてのオプションの選択を解除します。インストールプログラムによって、レポジトリが自動的にアップグレードされます。

14. [次へ]をクリックします。

選択した RDBMS の [RDBMS レポジトリの設定] ウィンドウが表示されます。

15. 表 7 から 46 ページの表 10 に示された内容に従って、[RDBMS レポジトリの設定] ウィンドウに次の RDBMS 固有の設定情報を入力します。

表 7: IBM DB2 Personal Edition の接続情報

テキスト ボックス	項目
インストール先フォルダ	IBM DB2 Personal Edition ソフトウェアのインストール先のパスを指定します。
DB2 データベース名	データベース アプリケーション名を入力します。デフォルトは ANALYZ65 です。
DB2 管理者ユーザ名	DB2 管理者のユーザ名を入力します。
DB2 管理者パスワード	DB2 管理者のパスワードを入力します。

表 8: DB2 7.2 および 8.1 の接続情報

テキスト ボックス	項目
DB2 サーバ	明示的なデータベース サーバ名を指定します。 "localhost" は使用しないでください。
DB2 データベース名	データベース アプリケーション名を入力します。デフォルトは ANALYZ65 です。
DB2 管理者ユーザ名	DB2 管理者のユーザ名を入力します。
DB2 管理者パスワード	DB2 管理者のパスワードを入力します。

表 8: DB2 7.2 および 8.1 の接続情報 (続き)

テキスト ボックス	項目
ポート	クライアントとサーバ間の通信で使用されるポートを指定します。デフォルトは 50000 です。
JDBC ドライバパス	JDBC ドライバへのパスです。デフォルトのファイル名は db2java.zip です。

表 9: Oracle の接続情報

テキスト ボックス	項目
Oracle サーバ	明示的なデータベース サーバ名を指定します。 "localhost" は使用しないでください。
Oracle SID	Oracle SID を入力します。
Oracle テーブルスペース名	Oracle テーブルスペースの名前を指定します。
Oracle ユーザ名	root アカウント ユーザの名前を入力します。
Oracle パスワード	root アカウント ユーザのパスワードを入力します。
ポート	クライアントとサーバ間の通信に使用するポートを指定します。
JDBC ドライバパス	Oracle JDBC ドライバへのパスです。デフォルトのファイル名は classes12.zip です。

表 10: SQL Server 2000 の接続情報

テキスト ボックス	項目
MSSQL Server	明示的なデータベース サーバ名を指定します。 "localhost" は使用しないでください。
SQL Server データベース名	データベース アプリケーション名を入力します。 デフォルトのデータベース名は ANALYZ65 です。
SQL Server 管理者ユーザ名	SQL Server 管理者のユーザ名を入力します。
SQL Server 管理者パスワード	SQL Server 管理者のパスワードを入力します。
JDBC ドライバパス	Microsoft SQL Server JDBC ドライバのパスです。デフォルトのファイル名は mssqlserver.jar です。

表 10: SQL Server 2000 の接続情報 (続き)

テキスト ボックス	項目
マスター ポート (詳細)	クライアントとサーバ間の通信に使用されるポートです。デフォルトのポート番号は 1433 です。
DB ポート (詳細)	サーバとデータベース間の通信に使用されるポートです。デフォルトのポート番号は 1433 です。

16. オプション: 既存 RDBMS レポジトリへの Hyperion Analyzer のインストール時に [接続のテスト] をクリックして、接続情報が正しく入力されているかどうかを確認します。

この時点で、RDBMS 用の JDBC ドライバを指定し、別の既存データベースとのドリルスルー接続を確立することができます。リレーショナルドリルスルー機能をサポートするための追加の RDBMS タイプと JDBC ドライバの選択はオプションです。

17. 次のいずれかの操作を行います。

- ドリルスルー接続が必要ない場合は、[手順 19](#)に進んでください。
- ドリルスルー接続が必要な場合は、使用可能な RDBMS タイプを次の中から選択します。
 - DB2 7.2 Fixpack 7 Enterprise
 - DB2 8.1 Enterprise
 - Oracle 8.17
 - Oracle 9.2.7
 - MS SQL Server 2000 SP3
 - Teradata 4.1

対応する JDBC ドライバのパスを入力するテキストボックスが表示されます。

18. JDBC ドライバのパスを入力するか、ディレクトリを参照して選択します。たとえば、Oracle の JDBC ドライバファイル名は `classes12.zip` です。

19. [次へ]をクリックします。

48 ページの図 14 に示すように、[Hyperion Analyzer の設定] ウィンドウが表示されます。

Hyperion Analyzer の Windows でのインストールを完了するには、このウィンドウでインストールの設定を行い、インストールの概要を確認します。

図 14: Hyperion Analyzer インストール ウィザードの [Hyperion Analyzer の設定] ウィンドウ



20. 次のフィールドに該当する情報を入力します。

- [インストール先フォルダ] テキスト ボックスには、Hyperion Analyzer ソフトウェアをインストールするパスを入力します。デフォルトは次のとおりです。
<ドライブ>\%hyperion%\analyzer
- [サブレット エンジン名] テキスト ボックスには、サブレット エンジンの名前を入力します。デフォルトは Analyzer6_Server です。

- [RDBMS レポジトリ ユーザ名]テキストボックスには、管理者権限を持つ有効な RDBMS のユーザ名を入力します。
- [RDBMS レポジトリ パスワード]テキストボックスには、ユーザ名の有効なパスワードを入力します。

21. [次へ]をクリックします。

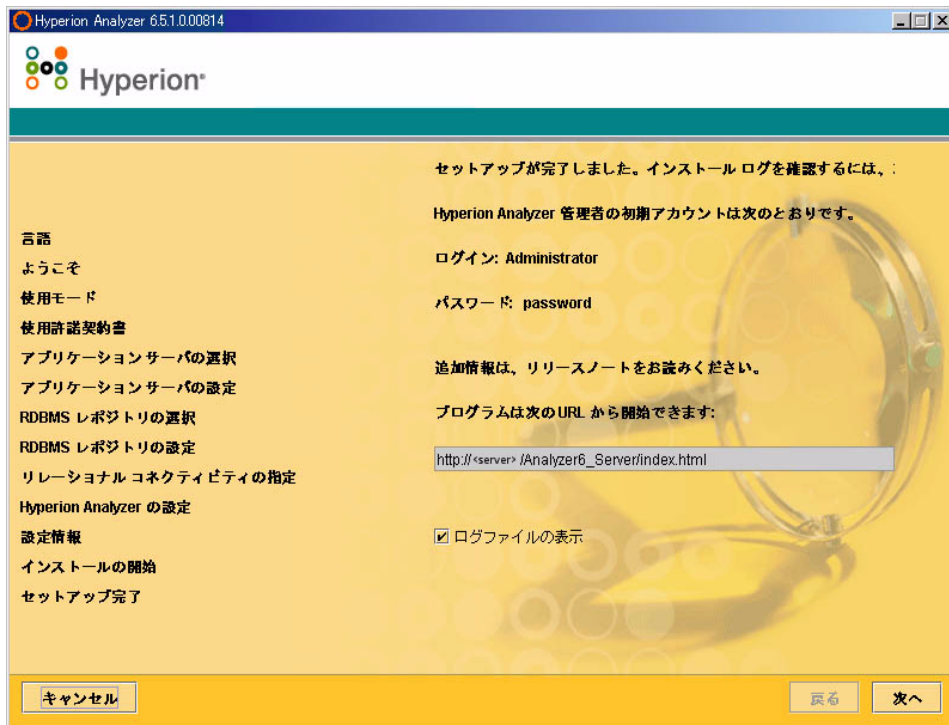
[インストールの概要]ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、インストール オプションの設定情報が表示されます。

22. この情報を確認し、次のいずれかの操作を行います。

- インストールの設定を変更するには、[戻る]をクリックします。
- 設定情報が正しい場合は、[次へ]をクリックします。

これで Hyperion Analyzer のインストールが始まります。インストールが完了すると、[セットアップ完了]ウィンドウが表示されます。インストール エラーがある場合にのみ、インストール ログファイルを見るためのチェック ボックスが表示されます。

図 15: Hyperion Analyzer インストール ウィザードの[セットアップ完了]ウィンドウ



メモ： デフォルトのユーザ名とパスワードは、Administrator と password です。デフォルトのドメインは Analyzer です。インストール ログファイルは、<Destination Folder>/hyasetup.<timestamp>.log にあります。ここで、<Destination Folder> は Hyperion Analyzer ソフトウェアがインストールされたディレクトリで、<timestamp> はインストールの日時です。

23. [次へ]をクリックします。

[セットアップ完了]ウィンドウが閉じて、Windows 用の Hyperion Analyzer のインストールが完了します。

24. IBM WebSphere アプリケーション サーバをインストールした場合は、コンピュータを再起動します。

Hyperion Analyzer インストール後の作業

Hyperion Analyzer を起動する前に、インストール オプションの選択に従って、次のいずれかの作業を行う必要があります。

- 51 ページの「システム変数の設定メソッドの決定」
- 52 ページの「PATH 変数の設定および出力」
- 55 ページの「WebSphere および WebLogic の手動展開」
- 56 ページの「外部およびアプリケーション セキュリティの設定」
- 56 ページの「Hyperion Essbase OLAP サーバの起動」
- 57 ページの「RDBMS サービスの開始」
- 57 ページの「Hyperion Analyzer Server の起動」

システム変数の設定メソッドの決定

Hyperion Analyzer のインストールにはさまざまなオプションが用意されています。これらのオプションから、必要な構成を選択する必要があります。次の表は、システム変数の設定および出力方法と、アプリケーション サーバを起動して Hyperion Analyzer を使用する前のどの時点でサーバを再起動する必要があるかを示しています。

表 11: PATH 変数の設定

アプリケーションサーバ	インストール時の選択	手動設定変数	再起動
Apache Tomcat	Batteries Included	なし	なし
IBM WebSphere	プリインストール済み	なし	あり
Apache Tomcat	プリインストール済み	システム変数を設定します。52 ページの「既存の Apache Tomcat に対する変数の設定」を参照してください。	あり

表 11: PATH 変数の設定 (続き)

アプリケーション サーバ	インストール時 の選択	手動設定変数	再起動
Apache Tomcat	プリインストール済み	システム変数を出力します。53 ページの「既存の Apache Tomcat に対する変数の出力」を参照してください。	なし
BEA WebLogic	プリインストール済み	システム変数を設定します。54 ページの「BEA Weblogic に対する PATH 変数の設定」を参照してください。	あり
BEA WebLogic	プリインストール済み	システム変数を出力します。54 ページの「BEA WebLogic に対する PATH 変数の出力」を参照してください。	なし

PATH 変数の設定および出力

既存の Apache Tomcat または BEA Weblogic アプリケーション サーバを起動して Hyperion Analyzer を使用する前に、PATH 変数を Windows システムに設定または出力しておく必要があります。PATH 変数は、次のいずれかの方法で設定できます。

- システム コントロール パネル
- 起動スクリプト

システム コントロール パネルから PATH 変数を設定することで、コンピュータの起動時期と、再起動が必要かどうかを決定できます。アプリケーション サーバの起動スクリプトで変数を出力する場合は、現在のアプリケーション サーバセッションに対してのみ有効となり、コンピュータを再起動する必要はありません。これにより、PATH 変数の設定方法に柔軟性が得られます。

既存の Apache Tomcat に対する変数の設定

- ▶ システムのコントロール パネルから PATH 変数を設定するには、次のようにします。
 1. Windows の[コントロール パネル]から[システム]を開き、[詳細]タブをクリックします。
 2. [環境変数]ボタンをクリックします。

3. システム環境変数の PATH に、次のパスをセミコロンで区切って挿入します。
%ANALYZER_INSTALL_ROOT%/adm/bin/nt
%ANALYZER_INSTALL_ROOT%/common
4. [OK]をクリックして、[環境変数]ダイアログボックスを閉じます。
5. [OK]をクリックして[コントロールパネル]を閉じます。
6. コンピュータを再起動します。

注意：PATH 変数の修正後、その変数を有効にして Hyperion Analyzer を正しく実行できるよう、コンピュータを再起動する必要があります。

既存の Apache Tomcat に対する変数の出力

- ▶ アプリケーション サーバの起動スクリプトを使用して Apache Tomcat に PATH 変数を出力するには、次のようにします。
 1. アプリケーション サーバが停止していることを確認します。
 2. アプリケーション サーバのインストールされているコンピュータで、Hyperion Analyzer の startup.bat ファイルを探します。たとえば、Apache Tomcat の "batteries included" では、パスは次のようになります。
c:¥hyperion¥analyzer¥appserver¥bin
 3. startup.bat ファイルを編集して、次のように PATH 変数の設定を組み込みます。
"call %analyzerinstallroot%¥analyzer_env.bat"
 4. startup.bat ファイルを保存して閉じます。
 5. [スタート] > [Hyperion Solutions] > [Hyperion Analyzer 6.5] > [Start Analyzer Server] で表示される Hyperion Analyzer のショートカットを右クリックし、[プロパティ]をクリックします。
 6. Target パスを analyzer_statup.exe から startup.bat に編集します（他のパスは変更しないでください）。
 7. [OK]をクリックします。

BEA Weblogic に対する PATH 変数の設定

アプリケーション サーバを起動して Hyperion Analyzer を使用する前に、PATH 変数を Windows システムに設定しておく必要があります。PATH 変数は、システムのコントロールパネルで設定します。これによって、コンピュータの起動時期と、再起動が必要かどうかを決定できます。

- ▶ システムのコントロール パネルから BEA Weblogic の PATH 変数を設定するには、次のようにします。
1. Windows の[コントロール パネル]から[システム]を開き、[詳細]タブをクリックします。
 2. [環境変数]ボタンをクリックします。
 3. システム環境変数の PATH に、次のパスをセミコロンで区切って挿入します。
%ANALYZER_INSTALL_ROOT%/adm/bin/nt
%ANALYZER_INSTALL_ROOT%/common
 4. [OK]をクリックして、[環境変数]ダイアログを閉じます。
 5. [OK]をクリックして[コントロール パネル]を閉じます。
 6. コンピュータを再起動します。

注意： PATH 変数の修正後、その変数を有効にして Hyperion Analyzer を正しく実行できるよう、コンピュータを再起動する必要があります。

BEA WebLogic に対する PATH 変数の出力

BEA WebLogic をアプリケーション サーバとして使用する場合、PATH 変数を起動スクリプトに出力することができます。これは、startWebLogic.cmd ファイルを編集して行います。このファイルを編集することで、次の処理が可能です。

- BEA WebLogic に対する CLASSPATH 変数の設定
- JAVAHOME 変数の設定
- analyzer_env.bat ファイルの呼び出し

analyzer_env.bat ファイルが呼び出されると、Hyperion Analyzer レポジトリへの接続および他の JDBC 接続が作成され、Hyperion Essbase 接続を有効にするために必要なパス変数が設定されます。次に、システム変数を出力する手順を説明します。

- ▶ アプリケーション サーバの起動スクリプトを使用して BEA WebLogic にシステム変数を出力するには、次のようにします。

1. アプリケーション サーバが実行されていないことを確認します。
2. 次のパスに移動して、startWebLogic.cmd ファイルを探します。

```
¥<beainstall>¥wlsrver6.1¥config¥<domainname>¥startWebLogic.cmd
```

3. ここで、<beainstall> は BEA WebLogic のインストール先のパス、<domainname> は BEA WebLogic で作成されたドメインの名前です。
4. このファイルに次の変更を加えます。

```
"set CLASSPATH=.;¥lib¥weblogic_sp.jar;¥lib¥weblogic.jar;
%CLASSPATH%"

"%JAVA_HOME¥bin¥java" -hotspot -ms128m -mx256m -classpath
"%CLASSPATH%"...

"call %analyzerinstallroot%¥analyzer_env.bat "
```

ここで、%analyzerinstallroot% は Hyperion Analyzer がインストールされているルート ディレクトリです。デフォルトは c:¥hyperion¥analyzer です。

メモ：ここで示す -ms および -mx の変更値は推奨最小値です。

5. startWebLogic.cmd ファイルを保存して閉じます。

WebSphere および WebLogic の手動展開

Hyperion Analyzer を展開するアプリケーション サーバとして既存の IBM WebSphere または BEA WebLogic を選択する場合、処理を続行する前に手動による展開設定を行う必要があります。アプリケーション サーバへの手動展開に必要な手順および情報は、以降の章で説明します。

- [第4章「IBM WebSphere への Hyperion Analyzer の展開」](#)
- [第5章「BEA WebLogic への Hyperion Analyzer の展開」](#)

外部およびアプリケーションセキュリティの設定

Hyperion Analyzer のインストール後は、セキュリティ機能を設定できます。Hyperion Analyzer のセキュリティは、外部認証と内部認証に分類されます。Hyperion Analyzer ではセキュリティ機能を実装するために、次のオプションを提供しています。

- Analyzer セキュリティ (デフォルト)
- Essbase セキュリティ
- 外部認証

デフォルトの Hyperion Analyzer セキュリティは、アプリケーション固有のセキュリティです。有効なユーザ名とパスワードが Hyperion Analyzer レポジトリに含まれていないと、Hyperion Analyzer のユーザとして認証されません。

外部認証は Hyperion Analyzer を実行するための必要条件ではありませんが、他の Hyperion 製品と容易に統合化できるよう、外部認証の使用をお勧めします。この認証は、既存の Hyperion Essbase セキュリティを使用したり、次のような既存の認証を設定することで実装できます。

- Lightweight Directory Access Protocol (LDAP)
- Microsoft Windows NT LAN Manager (NTLM)
- Microsoft Active Directory (MSAD)

これらのセキュリティ オプションの詳細は『Hyperion Analyzer Administrator's Guide』の第 4 章「Managing Security Access」を参照してください。

Hyperion Essbase OLAP サーバの起動

- ▶ Essbase OLAP サーバを起動するには、次のようにします。
 1. Windows デスクトップから、[スタート] > [プログラム] > [Hyperion Solutions] > [Hyperion Essbase] > [Essbase OLAP Server] の順にクリックします。
 2. 有効なパスワードを入力し、[Enter] キーを押します。

RDBMS サービスの開始

IBM DB2 Enterprise Personal Edition の起動

レポジトリとして IBM DB2 Enterprise Personal Edition をインストールした場合は、次のサービスを開始します。

- DB2 – DB2
- DB2 – DB2DAS00
- DB2 JDBC Applet Server

Hyperion Analyzer Server の起動

Apache Tomcat 以外のアプリケーション サーバは、そのマニュアルに従って起動してください。アプリケーションサーバとして Apache Tomcat を選択している場合は、次の項に起動と停止の手順を示しています。

Tomcat Application Server の起動と停止

インストール時に Apache Tomcat Application Server を選択した場合は、Hyperion Analyzer を起動する前にサーバを起動し、必要な作業を完了してからサーバを停止します。

- ▶ Apache Tomcat Application Server を起動するには、[スタート] > [プログラム] > [Hyperion Solutions] > [Hyperion Analyzer 6.5] > [Start Analyzer Server] をクリックします。
- ▶ Apache Tomcat Application Server を停止するには、[スタート] > [プログラム] > [Hyperion Solutions] > [Hyperion Analyzer 6.5] > [Stop Analyzer Server] をクリックします。

Hyperion Analyzer の開始

次の Hyperion Analyzer 起動ページの URL をユーザに連絡します。

http://<hostname>/Analyzer6_Server/index.html

▶ Hyperion Analyzer Client を起動するには、次の手順を実行します。

1. ブラウザを開き、起動ページの URL を入力して [Enter] キーを押します。

Hyperion Analyzer の [起動] ページが表示されます。

図 16: Hyperion Analyzer の [起動] ページ

HYPERION® ANALYZER

- Java Web Client
- HTML Web Client
- Administration Tools Client
- Analysis Server Console

You are Here: **Hyperion Analyzer Launch Page**

Welcome to the Hyperion® Analyzer Launch Page

Java Web Client

Using Java technology, the Hyperion Analyzer Java Web Client offers Web-based functionality at its best. This client enables users to create and save sophisticated analytical reports using a single interface. The Java Web Client is ideal for advanced business analysis users and report designers. [Launch](#)

HTML Web Client

The Hyperion Analyzer HTML Web Client is a zero-footprint Hyperion Analyzer client based on standard HTML technology. Because of its streamlined, intuitive user-interface, this Web client is ideal for users focused on using – rather than creating – business analyses. [Launch](#)

Administration Tools Client

Hyperion Analyzer Administration Tools is a graphical user-interface for managing users, user groups, database connections and security roles. [Launch](#)

Analysis Server Console

The Hyperion Analyzer Analysis Server Console enables administrators to remotely monitor and control Hyperion Analyzer Analysis Servers. [Launch](#)

Hyperion® Analyzer Information Map

The Information Map provides centralized access to the entire Hyperion Analyzer documentation set, this launch page and several related Web sites. [Learn More](#)

Install the Sample Report Group

Quickly learn how to create a connection and import the included sample reports. [Learn More](#)

Hyperion® Analyzer API Toolkit Jump Start Guide

The API Toolkit Jump Start Guide introduces concepts necessary to begin using the API Toolkit, as well as provides live sample applications. [Learn More](#)

2. 次のいずれかのオプションを選択します。

- Java Web Client
- HTML Web Client
- Administration Tools Client
- Analysis Server Console

選択したコンポーネントが新しいブラウザ ウィンドウに表示されます。対応するクライアントアプリケーションが起動し、[ログイン]ページが表示されます。

メモ：適切な Java コンソールがない場合、正しいバージョンをインストールするためのメッセージが表示されます。

3. [ユーザ名]と[パスワード]に情報を入力し、[ログイン]をクリックします。

ブラウザに Hyperion Analyzer オプションが表示されます。

Hyperion Analyzer の[起動]ページ

Hyperion Analyzer の[起動]ページには、多くの情報と他の Hyperion Analyzer リソースが含まれています。[起動]ページでは、次の情報を参照できます。

- Essbase.com へのリンク
- 情報マップの起動
- サンプル レポート グループのインストール方法に関する指示
- 『Hyperion Analyzer API Toolkit Jump Start Guide』（API ツールキットの入門ガイド、英語版）
- サンプル HTML Web Client の起動

Microsoft IIS Web Server の設定

Apache Tomcat 4.0.4 アプリケーション サーバとともに Microsoft Internet Information Services (IIS) を使用する場合は、Microsoft IIS Web Server を手動で設定する必要があります。

- ▶ Apache Tomcat と Microsoft IIS を設定するには、次のようにします。
 1. `isapi_redirect.dll` (`hyperion/analyzer/appserver/bin`) にあるディレクトリに、仮想ディレクトリの "jakarta" を追加して読み込みと実行許可を設定します。
 2. 同じディレクトリに "jakarta" という名前の ISAPI フィルタを追加します。
 3. Microsoft IIS を再起動します。

Microsoft IIS Web Server の手動設定 - 手順

- ▶ 仮想ディレクトリを追加して許可を設定するには、次の手順を実行します。
 1. Microsoft IIS Internet Service Manager を実行します。プラス記号 (+) をクリックして Web サーバ名のノードを展開し、[Default Web site] を選択します。
 2. 右クリックして [Properties] を選択します。
[Default Web Site Properties] ダイアログ ボックスが表示されます。
 3. [Directory Security] タブをクリックします。
 4. [Anonymous Access and Authentication Control] 領域で [Edit] をクリックします。
[Authentication Methods] ダイアログ ボックスが表示されます。
 5. [Anonymous User] が有効な Windows NT ユーザであり、読み込みと書き込み、または変更許可を持っていることを確認して [OK] をクリックします。
 6. もう一度 [Default Web site] を右クリックして [New] > [Virtual Directory] をクリックします。
[Virtual Directory Creation] ダイアログ ボックスが表示されます。
 7. 仮想ディレクトリ名として Jakarta と入力し、[Next] をクリックします。
 8. `isapi_redirect.dll` を含むディレクトリへのパス (`hyperion/analyzer/appserver/bin`) を入力し、[Next] をクリックします。

9. [Allow Read Access]と[Allow Execute Access]チェックボックスがオンになっていることを確認し、[Finish]をクリックします。
ツリービュー内で、デフォルトの Web サイトの下に、作成した仮想ディレクトリが表示されます。
10. [Default Web site]を選択し、右クリックして[Properties]を選択します。
[Default Web Site Properties]ダイアログ ボックスが表示されます。
11. [ISAPI Filters]タブをクリックし、[Add]をクリックします。
[Filter Properties]ダイアログ ボックスが表示されます。
12. ファイル名に Jakarta と入力します。
13. isapi_redirect.dll ファイルを含むディレクトリへのパス (hyperion/analyzer/appserver/bin) を入力し、[OK]をクリックします。
14. Microsoft IIS を再起動します。

この章では、Hyperion Analyzer のインストール内容とインストール場所について説明します。インストール場所は展開するアプリケーション サーバによって異なりますが、一般的には次の表に示すように構成されています。

Hyperion Analyzer の最上位ディレクトリ

Hyperion Analyzer をインストールすると、最上位レベルの `%analyzer` ディレクトリの下に、次の表に示すディレクトリが作成されます。

表 12: Hyperion Analyzer の最上位ディレクトリ

ディレクトリ	説明
adm	Hyperion Analytical Data Model の最上位ディレクトリ レベルを含むディレクトリ (Hyperion Essbase への Java API)
appserver	Hyperion Analyzer とともにインストールされたアプリケーション サーバを含むディレクトリ
common	外部認証の実装に使用される DLL を含むディレクトリ
conf	構成ファイルを含むディレクトリ
css	外部認証を実装するための JRE jar ファイルを含むディレクトリ
jdk	Java SDK ファイルを含むディレクトリ
utils	以前のリリースの Hyperion Analyzer を移行するためのユーティリティを含むディレクトリ

表 12: Hyperion Analyzer の最上位ディレクトリ (続き)

ディレクトリ	説明
wp_output	Apache Tomcat 以外のアプリケーション サーバ用に、Hyperion Analyzer の Web 発行機能で使用されるディレクトリ
wp_templates	Apache Tomcat 以外のアプリケーション サーバ用に、Hyperion Analyzer の Web 発行テンプレート ファイルを含むディレクトリ

Hyperion Analyzer のサーバディレクトリ

Hyperion Analyzer を Apache Tomcat とともにインストールしている場合、サーバディレクトリは次のようになります。

```
¥hyperion¥analyzer¥appserver¥webapps¥Analyzer6_Server¥
```

既存の Apache Tomcat に Hyperion Analyzer をインストールしている場合、サーバディレクトリは次のようになります。

```
<tomcatinstallroot>¥appserver¥webapps¥Analyzer6_Server¥
```

既存のアプリケーション サーバに Hyperion Analyzer をインストールしている場合、サーバディレクトリは次のようになります。

```
¥hyperion¥analyzer¥
```

Hyperion Analyzer の関連ファイルはすべて、Analyzer.ear ファイルに格納されています。EAR ファイルの展開の詳細は、[第4章「IBM WebSphere への Hyperion Analyzer の展開」](#)または[第5章「BEA WebLogic への Hyperion Analyzer の展開」](#)を参照してください。

このディレクトリには ¥Ear サブディレクトリがあり、EAR ファイルの内容が含まれています。展開に対する変更は、このディレクトリに対して行われます。この EAR ファイルの再展開は、¥analyzer¥utils¥rebuild_ear.bat ファイルを使用して行います。

表 13: Hyperion Analyzer のサーバ ディレクトリ

ディレクトリ	説明
analyzer	このディレクトリは、Hyperion Analyzer で使用するファイル用に予約されています。
Help	このディレクトリには、Hyperion Analyzer のマニュアルが含まれています。
images	このディレクトリには、起動ページで使用するグラフィックが含まれています。
images_launch	このディレクトリには、画像ファイルが含まれています。
logs	このディレクトリは、Hyperion Analyzer で使用するファイル用に予約されています。
samples	このディレクトリには、Hyperion Analyzer サンプル レポート グループをインストールするための .arg ファイルが含まれています。
temp	このディレクトリは、Hyperion Analyzer で使用するファイル用に予約されています。
templates	このディレクトリには、Java Web Client で使用されるレポート テンプレートが含まれています。
templates_de	このディレクトリには、ドイツ語版の Java Web Client で使用されるレポート テンプレートが含まれています。
templates_fr	このディレクトリには、フランス語版の Java Web Client で使用されるレポート テンプレートが含まれています。
templates_ja	このディレクトリには、日本語版の Java Web Client で使用されるレポート テンプレートが含まれています。
templates_javalook	このディレクトリには、Java Web Client で使用される代替の画面表示用レポート テンプレートが含まれています。
templates_toggle	このディレクトリには、Java Web Client で使用される代替レポート テンプレートが含まれています。
WEB-INF	このディレクトリには、アプリケーション サーバの設定およびライブラリ ファイルが含まれています。

表 13: Hyperion Analyzer のサーバ ディレクトリ (続き)

ディレクトリ	説明
wp_output	このディレクトリは、Hyperion Analyzer の Web 発行機能で使用されます。Apache Tomcat でのみ使用されます。
wp_templates	このディレクトリは、Hyperion Analyzer の Web 発行機能で使用されます。Apache Tomcat でのみ使用されます。

IBM WebSphere を使用している場合は、すでにインストール済みの IBM WebSphere アプリケーション サーバに Hyperion Analyzer を手動でインストールする必要があります。この作業では、すべてのシステム要件を満たし、IBM WebSphere がアプリケーション サーバとして選択され、Hyperion Analyzer のインストールが完了していることを前提とします。

IBM WebSphere への展開

IBM WebSphere Advanced Edition への展開

次の手順は、IBM WebSphere Advanced Edition の説明です。IBM WebSphere Advanced Edition Single Server を使用する場合は、[70 ページの「Advanced Edition Single Server への展開」](#)に進んでください。

Web アプリケーションのインストール

- ▶ Hyperion Analyzer の Web アプリケーションをインストールするには、次の手順を実行します。

1. インストール先フォルダに出力された `Analyzer65.ear` エンタープライズアーカイブ ファイルをコピーします。

`Analyzer65.ear` のコピーを WebSphere の Installable Apps ディレクトリに配置することもできます。

注意：アーカイブ ファイルを `InstalledApps` ディレクトリには配置しないでください。Hyperion Analyzer が起動しなくなります。

2. WebSphere Administration Server Console を開きます。
3. ナビゲーション ウィンドウ（コンソールの左側）内の **[Enterprise Applications]** ノードを右クリックします。
4. **[Install Enterprise Application]** を選択します。

メモ：このウィンドウの **[Application Name]** フィールドは空白のままにしておいてください。

5. **[Browse]** をクリックし、デフォルトの `Installable Apps` ディレクトリに移動して `Analyzer65.ear` エンタープライズアーカイブ ファイルを開きます。
6. **[Next]** をクリックします。

WebSphere セキュリティの設定

展開時に、ユーザに役割を割り当てるダイアログ ボックスが表示され、WebSphere システム セキュリティを設定するようにメッセージが表示されます。

▶ WebSphere セキュリティの設定とユーザ権限の定義を行うには、次の手順を実行します。

1. **[Everyone]** を選択したまま、**[Mapping Users to Roles]** ボタンをクリックします。
2. **[Select Users/Groups - Everyone]** ダイアログ ボックスで、**[Everyone (No authentication)]** チェックボックスをオンにし、**[OK]** をクリックします。

WebSphere によって、すべての Hyperion Analyzer ユーザが同一セキュリティ グループの `Everyone` に属していることが示されます。Hyperion Analyzer ユーザの役割と権限は、Hyperion Analyzer Administration Tools を使用して後で変更できます。

3. **[Selecting Application Servers]** ウィンドウが表示されるまで、後続のインストール作業を続けます。

[Selecting Application Servers] ウィンドウでは、Hyperion Analyzer をサポートしているネットワーク クラスタ内にアプリケーション サーバとして IBM WebSphere Enterprise Server Edition を指定できます。

一連の作業の最後に、**[Confirm the Following]** ウィンドウが表示されます。

4. InstalledApps へのノード、ポートおよび完全修飾パス名が[Confirm the Following]ページに表示されていることを確認してください。

これらの情報が正確であり、Hyperion Analyzer のインストールで入力した情報と完全に一致している必要があります。一致していない場合は、インストールし直すか、または web.xml 設定ファイルを手動で変更します。

5. エンタープライズアプリケーションのインストールを終了するには、[Finish]をクリックします。

IBM HTTP Server httpd.conf ファイルの変更

メモ：この手順は Windows にのみ適用されます。

- ▶ httpd.conf ファイルを変更するには、次の手順を実行します。

1. テキスト エディタを使用して、IBM HTTP Server の httpd.conf ファイルを開きます。デフォルトの場所は C:\¥IBM_HTTP_Server¥Conf¥httpd.conf です。
2. 次の行を検索します。

```
AfpaEnable  
AfpaCache on  
AfpaLogFile "d:\¥IBM HTTP Server¥logs¥afpalog" V-ECLF
```

3. これらの 3 行の先頭に次のようにシャープ記号 (#) を付けてコメントアウトします。

```
# AfpaEnable  
# AfpaCache on  
# AfpaLogFile "d:\¥IBM HTTP Server¥logs¥afpalog" V-ECLF
```

Web サーバ プラグインの再生成

- ▶ Web サーバプラグインを再生成するには、次の手順を実行します。

1. WebSphere 4 Administration Server Console を開きます。
2. ナビゲーション ウィンドウ(コンソールの左側)内の[Nodes]ノードを展開します。
3. Hyperion Analyzer をインストールしたサーバノードを右クリックします。
4. [Regen Webserver Plug-in]を選択します。

5. Microsoft Windows の[サービス]ダイアログ ボックスで、IBM HTTP Server サービスを一度停止し、再開します。
6. 新しい環境変数を有効にするために、WebSphere サーバを再起動します。

Hyperion Analyzer Web アプリケーションの起動

- ▶ Hyperion Analyzer Web アプリケーションを起動するには、次の手順を実行します。
1. WebSphere Administration Server Console を開きます。
 2. ナビゲーション ウィンドウ (コンソールの左側) 内の[Enterprise Applications] ノードを展開します。
 3. Hyperion Analyzer アプリケーションを右クリックします。
 4. [Start]を選択します。
 5. Web ブラウザを開き、Hyperion Analyzer インストールの最終ウィンドウに表示された URL を入力します。デフォルトの URL は `http://Analyzer6_Server/index.html` です。

Hyperion Analyzer の[起動]ページが表示されます。このページから、Hyperion Analyzer クライアント アプリケーションを使って多次元リレーショナル データの分析を開始できます。

Advanced Edition Single Server への展開

Web アプリケーションのインストール

- ▶ Hyperion Analyzer のエンタープライズ アプリケーションをインストールするには、次の手順を実行します。
1. インストール先ディレクトリに出力された `Analyzer65.ear` エンタープライズアーカイブ ファイルをコピーします。デフォルトでは `C:\¥Hyperion¥Analyzer` に出力されます。

アーカイブのコピーを WebSphere の Installable Apps ディレクトリに配置することもできます。

注意：アーカイブ ファイルを InstalledApps ディレクトリには配置しないでください。Hyperion Analyzer が起動しなくなります。

2. WebSphere Administration Server Console を開きます。
3. [Nodes] ノードを展開し、Hyperion Analyzer をインストールするサーバ ノードを展開したら、[Enterprise Application] を選択します。
4. [Install] ボタンをクリックします。

メモ：このウィンドウの [Application Name] フィールドは空白のままにしておいてください。

5. [Browse] ボタンをクリックし、エンタープライズ アーカイブ ファイルを探します。デフォルトでは Installable Apps ディレクトリにあります。
6. [Next] をクリックします。

WebSphere セキュリティの設定

展開時に、WebSphere システム セキュリティを設定するようにメッセージが表示されます。WebSphere Application のインストールプログラムの [Mapping Roles to Users] ページに、すべての Hyperion Analyzer ユーザが同一セキュリティ グループの Everyone に属していることが示されます。

- ▶ WebSphere セキュリティの設定とユーザ権限の定義を行うには、次の手順を実行します。

1. [Mapping Roles to Users] ページの [Special Subjects Everyone] チェックボックスをオンにします。

Hyperion Analyzer ユーザの役割と権限は、Hyperion Analyzer Administration Tools を使用して後で変更できます。

一連の作業の最後に、[Confirm the Following] ウィンドウが表示されます。

2. InstalledApps へのノード、ポートおよび完全修飾パス名が[Confirm the Following] ページに表示されていることを確認してください。

これらの情報が正確であり、Hyperion Analyzer のインストールで入力した情報と完全に一致している必要があります。一致していない場合は、インストールし直すか、または web.xml 設定ファイルを手動で変更します。

3. エンタープライズアプリケーションのインストールを終了するには、[Finish] をクリックします。

IBM HTTP Server httpd.conf ファイルの変更

- ▶ httpd.conf ファイルを変更するには、次の手順を実行します。

1. テキスト エディタを使用して、IBM HTTP Server の httpd.conf ファイルを開きます。デフォルトの場所は C:\¥IBM_HTTP_Server¥Conf¥httpd.conf です。

2. 次の行を検索します。

```
AfpaEnable  
AfpaCache on  
AfpaLogFile "d:\¥IBM HTTP Server¥logs¥afpalog" V-ECLF
```

3. これらの 3 行の先頭に次のようにシャープ記号 (#) を付けてコメントアウトします。

```
# AfpaEnable  
# AfpaCache on  
# AfpaLogFile "d:\¥IBM HTTP Server¥logs¥afpalog" V-ECLF
```

Web サーバプラグインの再生成

- ▶ Web サーバプラグインを再生成するには、次の手順を実行します。

1. WebSphere 4 Administration Server Console を開きます。
2. [Nodes] ノードを展開し、次に Hyperion Analyzer をインストールしたサーバ ノードを展開します。[Application Servers] ノードを展開し、[Default Server] をクリックします。
3. [Advanced Settings] バナーの下にある [Web Server Plug-in Configuration] をクリックします。

4. [Generate] ボタンをクリックします。
5. Microsoft Windows の[サービス]ダイアログボックスで、IBM HTTP Server サービスを一度停止し、再開します。
6. 新しい環境変数を有効にするために、WebSphere サーバを再起動します。

Hyperion Analyzer Web アプリケーションの起動

▶ Hyperion Analyzer Web アプリケーションを起動するには、次の手順を実行します。

1. WebSphere Administration Server Console を開きます。
2. [Nodes] ノードを探して展開し、Hyperion Analyzer をインストールしたノードを展開します。
3. コンソールの左側にあるナビゲーション ウィンドウ内の [Enterprise Application] ノードをクリックします。
4. 新しい Web アプリケーション項目 (Analyzer65) のチェックボックスをオンにします。
5. [Start] ボタンをクリックします。
6. 第 2 章の [外部およびアプリケーション セキュリティの設定](#) に戻ってインストール作業を続けます。

BEA WebLogic への展開

すでにインストール済みの BEA WebLogic 6.1 または 7.0 アプリケーション サーバへは、Hyperion Analyzer を手動で展開する必要があります。

- ▶ BEA WebLogic 7.0 アプリケーション サーバへ Hyperion Analyzer を手動で展開するには、次の手順に従います。

1. BEA WebLogic Server を起動します。
2. WebLogic Server Console を開始します。
3. [Deployments] > [Applications] の順に選択し、[Configure a new Application] をクリックします。

Web ページに展開手順が表示されます。手順 2 では、[Listing of] の後にいくつかのハイパーリンクが表示されます。

4. 適切なドライブをクリックして、新しく作成したエンタープライズ アーカイブ (EAR) ファイルのあるディレクトリに移動します。
5. 該当する EAR ファイルが表示されたら、それに対応した [select] ハイパーリンクをクリックします。

展開プロセスの手順 3 では、EAR ファイルのインストール先のサーバを指定するためのプロンプトが表示されます。

6. [Available Server] でサーバを選択し、矢印ボタンをクリックして [Target Server] ウィンドウに移動させます。
7. 手順 4 のフィールドにアプリケーション名を入力します。デフォルトでは "Analyzer65" です。

8. [Configure and Display] ボタンをクリックします。
WebLogic Server EAR ファイルが設定され展開されます。
9. 第2章の56ページの「外部およびアプリケーションセキュリティの設定」に戻ってインストール作業を続けます。

データベース管理者は、セキュリティ情報を配布する代わりに、スクリプトを実行してレポジトリを作成できます。SQL スクリプトはすべて、次のいずれかの場所にあります。

- SQLScripts.zip (CD-ROM 上の Repository サブディレクトリ内)
- TEMP/_hya_tmp ディレクトリ (インストール後)

スクリプトは、Hyperion Analyzer でサポートしている RDBMS ごとに実行します。レポジトリを作成するための手順を次に示します。

[77 ページの「IBM DB2 のレポジトリの作成」](#)

[80 ページの「Oracle 用レポジトリの作成」](#)

[82 ページの「SQL Server 用レポジトリの作成」](#)

IBM DB2 のレポジトリの作成

IBM DB2 レポジトリの作成用に 3 種類のスクリプトがあります。

- AnalyzerCreateDatabaseDB2.sql : IBM DB2 7.2 Enterprise Server Edition 用のデータベースを作成します。
- AnalyzerCreateTablesDB2.sql : DB2 Workgroup および Enterprise Edition 用のレポジトリ テーブルを作成します。
- AnalyzerDefaultDataDB2.sql : IBM DB2 7.2 Enterprise Server Edition 用のテーブルに、Hyperion Analyzer のデフォルト設定値を入力します。

▶ IBM DB2 レポジトリを作成するには、次の手順を実行します。

1. SQL エディタを使用して AnalyzerCreateDatabaseDB2.sql スクリプトを開き、次のパラメータを変更します。

表 14: AnalyzerCreateDatabaseDB2.sql (IBM DB2 用のスクリプト パラメータ)

パラメータ	説明
****CAPSDBNAME****	Hyperion Analyzer データベース名。ANALYZ65 に置き換えます。
****DBNAME****	Hyperion Analyzer データベース名。ANALYZ65 に置き換えます。
****DB2USERNAME****	DB2 管理者のユーザ名に置き換えます。
****DB2PASSWORD****	対応する DB2 管理者のパスワードに置き換えます。
****CAPSUSER****	管理者がデータベース アプリケーションにアクセスするための RDBMS レポジトリのユーザ名に置き換えます。 メモ: ユーザ名は半角で 8 文字以内に行ってください。

メモ: インストール作業で作成した SQL スクリプトを使用する場合、管理者は SQL を修正する必要はありません。TEMP/_hya_tmp を参照してください。

2. 変更を保存し、SQL スクリプトを実行します。
3. SQL エディタを使用して AnalyzerCreateTablesDB2.sql スクリプトを開き、次のパラメータを変更します。

表 15: AnalyzerCreateTablesDB2.sql (IBM DB2 用のスクリプトパラメータ)

パラメータ	説明
****CAPSDBNAME****	Hyperion Analyzer データベース名。ANALYZ65 に置き換えます。
****DBNAME****	Hyperion Analyzer データベース名。ANALYZ65 に置き換えます。
****DB2USERNAME****	DB2 管理者のユーザ名。

表 15: AnalyzerCreateTablesDB2.sql (IBM DB2 用のスクリプトパラメータ) (続き)

パラメータ	説明
****DB2PASSWORD****	対応する DB2 管理者のパスワードに置き換えます。
****CAPSUSER****	管理者がデータベース アプリケーションにアクセスするための RDBMS レポジトリのユーザ名に置き換えます。 メモ: ユーザ名は半角で 8 文字以内にしてください。

4. 変更を保存し、SQL スクリプトを実行します。
5. SQL エディタを使用して AnalyzerCreateDatabaseDB2.sql スクリプトを開き、次のパラメータを変更します。

表 16: AnalyzerCreateDatabaseDB2.sql (IBM DB2 用のスクリプトパラメータ)

パラメータ	説明
****CAPSDBNAME****	Hyperion Analyzer データベース名。ANALYZ65 に置き換えます。
****CAPSUSER****	管理者がデータベース アプリケーションにアクセスするための RDBMS レポジトリのユーザ名に置き換えます。

メモ: インストール作業で作成した SQL スクリプトを使用する場合、管理者は SQL を修正する必要はありません。TEMP/_hya_tmp を参照してください。

6. 変更を保存し、SQL スクリプトを実行します。

Oracle 用レポジトリの作成

Oracle レポジトリの作成用に 4 種類のスクリプトがあります。

- AnalyzerCreateDatabaseOracle8i.sql : Oracle データベースを作成します。
- AnalyzerCreateTablesOracle8i.sql : Hyperion Analyzer レポジトリ テーブルを作成します。
- AnalyzerDefaultDataOracle8i.sql : デフォルトの Hyperion Analyzer 設定データをテーブルに入力します。
- AnalyzerCreateRemoveOracle8i.sql : データベース作成スクリプトの内部で使用されるスクリプトです。

▶ 次の方法で Oracle レポジトリを作成します。

1. SQL エディタで AnalyzerCreateDatabaseOracle8i.sql スクリプトを開き、次のスクリプト パラメータを修正します。

メモ: インストール作業で作成した SQL スクリプトを使用する場合、管理者は SQL を修正する必要はありません。TEMP/_hya_tmp を参照してください。

表 17: AnalyzerCreateDatabaseOracle8i.sql (Oracle 用のスクリプト パラメータ)

パラメータ	説明
****DB2USERNAME****	Oracle 管理者のユーザ名に置き換えます。
****DB2PASSWORD****	対応する管理者のパスワードに置き換えます。
****CAPSUSER****	管理者がデータベース アプリケーションにアクセスするための RDBMS レポジトリのユーザ名に置き換えます。 メモ: ユーザ名は半角で 8 文字以内にしてください。
****PASSWORD****	対応する CAPSUSER パスワードに置き換えます。

2. AnalyzerCreateDatabaseOracle8i.sql スクリプトを実行します。

- SQL エディタで AnalyzerCreateTablesOracle8i.sql スクリプトを開き、次のスクリプト パラメータを修正します。

メモ：インストール作業で作成した SQL スクリプトを使用する場合、管理者は SQL を修正する必要はありません。TEMP/_hya_tmp を参照してください。

表 18: AnalyzerCreateTablesOracle8i.sql (Oracle 用のスクリプト パラメータ)

パラメータ	説明
****USERNAME****	管理者がデータベース アプリケーションにアクセスするための RDBMS レポジトリのユーザ名に置き換えます。 メモ：ユーザ名は半角で 8 文字以内にしてください。

- AnalyzerCreateTablesOracle8i.sql スクリプトを実行します。
- SQL エディタで AnalyzerDefaultDataOracle8i.sql スクリプトを開き、次のスクリプト パラメータを修正します。

メモ：インストール作業で作成した SQL スクリプトを使用する場合、管理者は SQL を修正する必要はありません。TEMP/_hya_tmp を参照してください。

表 19: AnalyzerDefaultDataOracle8i.sql (Oracle 用のスクリプト パラメータ)

パラメータ	説明
****DB2USERNAME****	Oracle 管理者のユーザ名に置き換えます。
****DB2PASSWORD****	対応する管理者のパスワードに置き換えます。
****USERNAME****	管理者がデータベース アプリケーションにアクセスするための RDBMS レポジトリのユーザ名に置き換えます。 メモ：ユーザ名は半角で 8 文字以内にしてください。

- AnalyzerDefaultDataOracle8i.sql スクリプトを実行します。

SQL Server 用レポジトリの作成

SQL Server レポジトリの作成用に 4 種類のスクリプトがあります。

- AnalyzerCreateDatabaseMSSQL.sql : SQL Server データベースを作成します。
- AnalyzerCreateTablesMSSQL.sql : Hyperion Analyzer レポジトリ テーブルを作成します。
- AnalyzerDefaultDataMSSQL.sql : デフォルトの Hyperion Analyzer 設定データをテーブルに入力します。
- AnalyzerRemoveDatabasesMSSQL.sql : データベース作成スクリプトの内部で使用されるスクリプトです。

▶ 次の方法で SQL Server のレポジトリを作成します。

1. SQL エディタで AnalyzerCreateDatabase.sql スクリプトを開き、次のスクリプト パラメータを修正します。

メモ: インストール作業で作成した SQL スクリプトを使用する場合、管理者は SQL を修正する必要はありません。TEMP/_hya_tmp を参照してください。

表 20: AnalyzerCreateDatabase.sql (SQL Server のスクリプト パラメータ)

パラメータ	説明
****DBNAME****	Hyperion Analyzer データベース名。ANALYZ65 に置き換えます。
****USERNAME****	管理者がデータベース アプリケーションにアクセスするための RDBMS レポジトリのユーザ名に置き換えます。 メモ: ユーザ名は半角で 8 文字以内にしてください。
****PASSWORD****	対応するユーザ名のパスワードに置き換えます。

2. AnalyzerCreateDatabaseMSSQL.sql スクリプトを実行します。

- SQL エディタで AnalyzerCreateTablesMSSQL.sql スクリプトを開き、次のスクリプト パラメータを修正します。

メモ：インストール作業で作成した SQL スクリプトを使用する場合、管理者は SQL を修正する必要はありません。TEMP/_hya_tmp を参照してください。

表 21: AnalyzerCreateTablesMSSQL.sql SQL Server のスクリプト パラメータ

パラメータ	使用する値
****USERNAME****	管理者がデータベース アプリケーションにアクセスするための RDBMS レポジトリのユーザ名に置き換えます。 メモ：ユーザ名は半角で 8 文字以内にしてください。

- クエリ分析ツールのドロップダウン リストボックスから正しいデータベースを選択します。
- AnalyzerCreateTablesMSSQL.sql スクリプトを実行します。
- AnalyzerDefaultDataMSSQL.sql スクリプトを実行します。

章 7

Hyperion Analyzer サンプル レポートのインポート

Hyperion Analyzer には、2 つのレポート グループに属したサンプル レポートが提供されています。これらのレポートは、Sample:Basic と呼ばれる Hyperion Essbase サンプル アプリケーションのキューブに基づいており、Hyperion Analyzer レポジトリにインポートすることができます。次に、サンプル レポートおよび API Samples レポート グループをインポートする手順を説明します。

- [85 ページの「データベース接続の作成」](#)
- [87 ページの「サンプル レポート グループのインポート」](#)
- [87 ページの「API サンプル レポート グループのインポート」](#)

この手順は、次の条件を前提としています。

- Hyperion Analyzer がインストールされていること。
- 有効な Essbase OLAP サーバが起動していること。
- 有効なアプリケーション サーバが起動していること。

サンプル レポートのインポート

データベース接続の作成

サンプル レポートをインポートするには、Hyperion Essbase キューブへのデータベース接続が必要です。

- ▶ サンプル レポート グループおよびレポートをインポートするには、次の手順を実行します。

1. Hyperion Analyzer Java Web Client を起動します。

2. サポートされている Web ブラウザを起動します。
3. [ファイル]>[開く]を選択します。
4. Hyperion Analyzer の起動ページの URL (インストールプログラムの最後のウィンドウからコピーした URL) を入力し、[Enter]キーを押します。
例：

```
http://<servername>/ Analyzer6_Server/webapp/Analyzer6/index.html
```
5. Hyperion Analyzer の[起動]ページで、[Java Web Client]をクリックします。
[ログイン]ページが表示されます。
6. 有効なユーザ名とパスワード (Administrator/password) を入力し、[OK] をクリックします。
7. Hyperion Analyzer のドロップダウン メニューから[ツール]>[ユーザ設定]を選択します。
[ユーザ設定]ダイアログ ボックスが表示されます。
8. ナビゲーション ウィンドウの[接続]をクリックします。
[ユーザ設定]の[接続]タブが表示されます。
9. [新規追加]ボタンをクリックします。
[データベースの種類の選択]ダイアログ ボックスが表示されます。
10. ドロップダウンリストから[Hyperion Essbase]を選択して[OK]をクリックします。
[Hyperion Essbase ログイン]ダイアログ ボックスが表示されます。
11. Hyperion Essbase サーバを指定し、有効な Hyperion Essbase ユーザ名とパスワードを入力して[OK]をクリックします。
[データベースの一覧]ダイアログ ボックスが表示されます。
12. [使用可能なデータベース]の一覧から[Sample:Basic]を選択し、右矢印 (>) ボタンをクリックします。
[選択されたデータベース]の一覧に[Sample:Basic]が追加されます。
13. [OK]をクリックします。
[ユーザ設定]の[接続]の一覧に[Sample:Basic]が追加されます。
14. [適用]をクリックし、[閉じる]をクリックします。

サンプル レポート グループのインポート

レポート グループをインポートするには、Java Web Client を使用する必要があります。

メモ：ユーザは、管理者 (Administrator) またはパワーユーザ (Power User) のいずれかであり、レポート グループをインポートする権限を持っている必要があります。

- ▶ サンプル レポート グループをインポートするには、次の手順を実行します。
 1. Java Web Client のメニューバーから、[ファイル] | [インポート] | [レポート グループ] の順に選択します。
[開く] ダイアログ ボックスが表示されます。
 2. 次のディレクトリにある Sample Reports.ARG ファイルを選択します。
`Hyperion¥analyzer¥appserver¥webapps¥Analyzer6_Server¥samples`
[接続の割り当て] ダイアログ ボックスが表示されます。
 3. [エクスポートされた接続] の一覧から [localhost:Sample:Basic] を選択し、前の手順で [使用可能なデータベース] に追加したデータベース接続を選択します。
 4. [接続の割り当て] ボタンをクリックします。
 5. [OK] をクリックします。
 6. レポート グループ名に **Sample Reports** と入力し、[OK] をクリックします。
レポート グループがレポジトリに保存されます。

API サンプル レポート グループのインポート

- ▶ API サンプル レポート グループをインポートするには、次の手順を実行します。
 1. Java Web Client のメニューバーから、[ファイル] | [インポート] | [レポート グループ] の順に選択します。
[開く] ダイアログ ボックスが表示されます。

2. 次のディレクトリにある `api_samples.ARG` ファイルを選択します。

```
Hyperion¥appserver¥hosts¥default_host¥Analyzer6_Server¥
Analyzer6¥web¥samples
```

[接続の割り当て]ダイアログ ボックスが表示されます。

3. [エクスポートされた接続]の一覧から[localhost:Sample:Basic]を選択し、前の手順で[使用可能なデータベース]に追加したデータベース接続を選択します。
4. [接続の割り当て]ボタンをクリックします。
5. [OK]をクリックします。
6. レポート グループ名に **API Samples** と入力し、[OK]をクリックします。
API サンプルのレポート グループがレポジトリに保存されます。

Windows からの Hyperion Analyzer のアンインストール

▶ Microsoft Windows 環境の Hyperion Analyzer を削除するには、次の手順を実行します。

1. 次のいずれかの操作を行います。

- IBM DB2 をインストールしている場合は、次の操作を実行してアンインストールを行います。
 - [スタート]>[設定]>[コントロール パネル]>[管理ツール]>[サービス]の順にクリックします。
 - すべての DB2 サービスを停止し、[コントロール パネル]に戻ります。
 - [アプリケーションの追加と削除]をダブルクリックします。リリース用に IBM DB2 Personal Edition をインストールした場合は、次のアプリケーションを削除します。
IBM DB2

メモ：この手順は、Hyperion Analyzer がデフォルトのディレクトリにインストールされていることを前提とします。Hyperion Analyzer を別の場所にインストールしている場合は、¥analyzer ディレクトリとそのすべての内容が削除されたことを確認してください。

- 次のディレクトリを削除します。
C:¥Hyperion¥analyzer

これで、Hyperion Analyzer は削除されました。

索引

A

Advanced Edition

WebSphere セキュリティの設定, [68](#)

WebSphere への展開, [67](#)

Advanced Edition Personal Server

WebSphere セキュリティの設定, [71](#)

WebSphere への展開, [70](#)

Apache Tomcat

PATH 変数の出力, [53](#)

PATH 変数の設定, [52](#)

Apache Tomcat Application Server、

起動および停止, [57](#)

API サンプル レポート グループ

インポート, [87](#)

B

BEA WebLogic

PATH 変数の出力, [54](#)

PATH 変数の設定, [54](#)

BEA WebLogic、展開, [75](#)

D

DB2 7.2 および 8.1

接続情報, [45](#)

H

httpd.conf ファイル, [69](#)

Hyperion Analyzer

BEA WebLogic, [75](#)

IBM WebSphere, [67](#)

IIS Web Server, [60](#)

Windows からのアンインストール, [89](#)

アーキテクチャ, [16](#)

アプリケーション コンポーネント, [15](#)

インストール オプション, [23](#)

インストール手順, [32](#)

インストールの準備, [29](#)

インストール前のチェックリスト, [29](#)

起動, [58](#)

サンプル レポートのインポート, [85](#)

システム要件, [25](#)

セキュリティ, [56](#)

レポジトリの移行, [32](#)

レポジトリの作成, [77](#)

レポジトリのバックアップ, [32](#)

Hyperion Analyzer Server、

起動, [57](#)

Hyperion Analyzer のインストール

Microsoft Windows, [25](#)

UNIX, [25](#)

Hyperion Essbase OLAP サーバ

起動, [56](#)

I

IBM DB2

Enterprise Server Edition, [31](#)

Personal Edition, [31](#)

追加情報, [30](#)

レポジトリの作成, [77](#)

IBM DB2 スクリプト

AnalyzerCreateDatabaseDB2.sql, [77](#)

AnalyzerCreateTablesDB2.sql, [77](#)

AnalyzerDefaultDataDB2.sql, [77](#)

IBM HTTP Server、

httpd.conf ファイル, [69](#)

IBM WebSphere、展開, [67](#)

IIS Web Server の設定, [60](#)

M

Microsoft IIS の手動設定, [60](#)

Microsoft SQL Server 2000, [31](#)

Microsoft Windows

Hyperion Analyzer のアンインストール, [89](#)

Hyperion Analyzer のインストール, [25](#)

O

Oracle

接続情報, [46](#)

レポジトリの作成, [80](#)

Oracle スクリプト

AnalyzerCreateDatabaseOracle8i.sql, [80](#)

AnalyzerCreateRemoveOracle8i.sql, [80](#)

AnalyzerCreateTablesOracle8i.sql, [80](#)

AnalyzerDefaultDataOracle8i.sql, [80](#)

P

PATH 変数の出力

Apache Tomcat の場合, [53](#)

BEA WebLogic の場合, [54](#)

PATH 変数の設定

Apache Tomcat の場合, [52](#)

BEA WebLogic の場合, [54](#)

R

RDBMS サービス、開始, [57](#)

RDBMS レポジトリ オプション

IBM DB2 7.2 Enterprise Server Edition, [44](#)

IBM DB2 7.2 Personal Edition, [44](#)

IBM DB2 8.1 Enterprise Personal Edition, [44](#)

Oracle 8.1.7, [44](#)

Oracle 9i, [44](#)

SQL Server 2000, [44](#)

S

SQL Server

レポジトリの作成, [82](#)

SQL Server 2000

接続情報, [46](#)

SQL スクリプト

AnalyzerCreateDatabaseMSSQL.sql, [82](#)

AnalyzerCreateTablesMSSQL.sql, [82](#)

AnalyzerDefaultDataMSSQL.sql, [82](#)

AnalyzerRemoveDatabasesMSSQL.sql, [82](#)

検索, [77](#)

U

UNIX

Hyperion Analyzer のインストール, [25](#)

あ

アプリケーション コンポーネント

Administration Tools, [15](#)

Analysis Server, [15](#)

API ツールキット, [15](#)

HTML Web Client, [15](#)

Java Web Client, [15](#)

Windows Client, [15](#)

レポジトリ, [15](#)

アプリケーション サーバ オプション

Apache Tomcat 4.0, [39](#)

BEA WebLogic 6.1, [39](#)

BEA WebLogic 7.0, [39](#)

IBM WebSphere 4, [39](#)

IBM WebSphere 5, [39](#)

アプリケーション セキュリティ, [56](#)

アンインストール

Windows からの Hyperion Analyzer, [89](#)

い

インストール オプション , 23

インストール後の処理

Hyperion Analyzer Server の起動 , 57

Hyperion Analyzer の起動 , 58

Hyperion Essbase OLAP サーバの起動 , 56

RDBMS サービスの開始 , 57

インストール前のチェックリスト , 29

インポート

API サンプル レポート グループ , 87

サンプル レポート グループ , 87

お

オプション、展開 , 18

き

既存レポジトリのバックアップ , 32

起動

Hyperion Analyzer , 58

Hyperion Analyzer Server , 57

Hyperion Essbase OLAP サーバ , 56

RDBMS サービス , 57

起動および停止

Apache Tomcat Application Server , 57

く

クライアントのシステム要件 , 28

け

検索、SQL スクリプト , 77

さ

サーバのシステム要件 , 25

作成

Hyperion Analyzer レポジトリ , 77

データベース接続 , 85

サンプル データベース

Sample:Basic , 85

サンプル レポート

インポート , 85

サンプル レポート グループ

インポート , 87

サンプル レポートのインポート , 85

し

システム要件

クライアント , 28

サーバ , 25

スタンドアロン クライアント , 27

す

スタンドアロン クライアント

システム要件 , 27

せ

セキュリティ

アプリケーション , 56

接続情報

DB2 7.2 および 8.1 , 45

Oracle , 46

SQL Server 2000 , 46

設定、IIS Web Server , 60

そ

その他のサポート

印刷マニュアル , xii

コンサルティング サービス , xiii

テクニカル サポート , xiv

トレーニング サービス , xiii

て

データベース接続

作成 , 85

展開

BEA WebLogic , 75

IBM WebSphere , 67

オプション , 18

オプション 1, 19

オプション 2, 20

オプション 3, 21

オプション 4, 22

に

認証 , 56

れ

レポジトリ

移行 , 32

バックアップ , 32

レポジトリの作成

IBM DB2 用 , 77

Oracle 用 , 80

SQL Server 用 , 82